

海防奉策

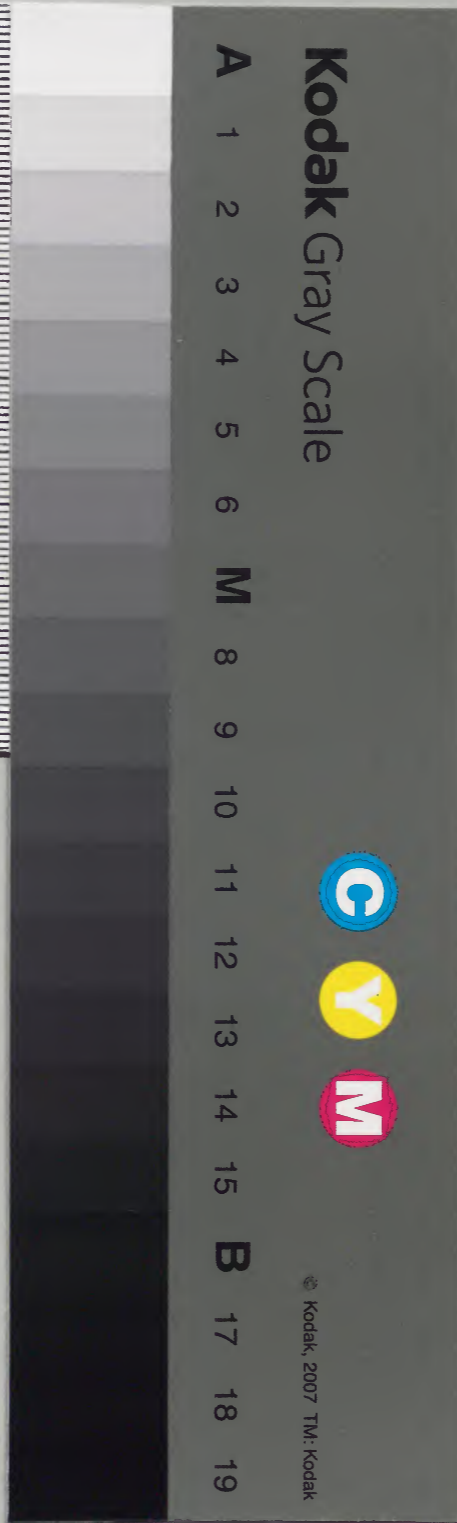
嘉永癸丑
鈴木大
共八冊

和書門
三六〇五一
二二四
三四
三八
冊架函號類

閣24

内閣文庫
番號 和 36051
冊數 38 (31)
函號 150 155

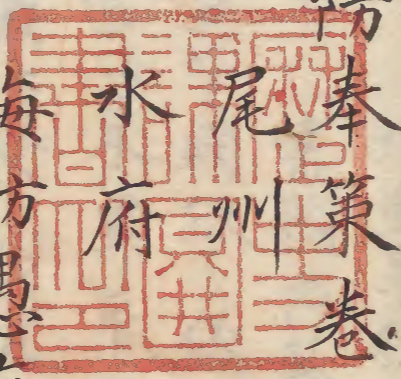
史五八



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

1029

海防策卷一



尾州府
海防愚存



熊本



海防明誨論 同



加州兩侯

越前

北亞墨利加三十二州共和政治政廳長官の
書翰清答の成儀見聞の從ひ竊に書綴り事

一 吾日本國政の儀

祖宗以來昇平三百年の向し中一に此迄の定規お尋
衆庶治安の便宜を以て遺訓の成らざる外時勢聊
無の來際交易の儀度も自用の自國産物の儀衆庶漸
昇平を樂しむるに足るに少く過分の産物無しに從者
支那和蘭小計り交易の儀及び兩國此藥品を積り來船
度々不得止事と右二ヶ國より藥品被送る付その他國
産物何れも一切無しに貴國金銀亦可申送趣有
自國の通用も是れ追々國産物も可申送趣有し
一金銀過分の成り節は昇平の弊荒廢奢侈流連

祖宗定規之質素之風俗廢過忽害至生——自滅之端
成治安之便宜之失じり皆變之無用之自國產物を以
て衆庶治安之る来りしを各其定之を和國家ホ古居りて
其お送之無用之而自國之分も無し何より其產物損
進之り沃無し傳聞貴國ハ開闢三百六十年程手ハ
益し月々盛あり一大強國ニ狭小自國其利を因志
りしもの不審尤も自國

祖宗之遺法之異國進港之者遠近之各別勿く不備是非
悉く討拂に定むる必貴國計に始末之無し但し不備是非
打拂及ん残忠之至る近年海防諸隊に停止中付
り貴國人民漂流有る節之何れも可憐之方扱定規
通長崎に善至其方にお進り貴國に善至其
惡を捨つらざる不善之交易ハ求むる華且自國
技藝之巧を其著り甚永決之り其狭少自國之
亦無之致強大之貴國ハ柔情之不便宜照之り
り改之法取用之節ハ無し其掛忠之致百幾の交易之儀
不亦叶ふ為通好有る儀ハ許容之り事ハ如井蛙
之陋習を衆庶他國之人に接し事お好む其技藝授
受之儀も用捨不亦叶ふ節又貴國之文武之學校之
勿備病院切院之設全備成就中海嶽測量之儀
之通らば他國に往後之月日并衣食之具を不顧
且漂流之憂あり堅便之海城固之り霞没之難あり事
故此末吾大島八丈島不屬鳩ノ使節滞泊無用之自
國ハ長壽之外支那和蘭之とも進港を不許に為

第一漁船漂泊薪水之長短者、長崎、本通、下、石炭
之進揚、船之無、官他、薪水之長、其、禮、謝
之、亦、在、船、手、高、何、人、之、有、之、既、之、貴、國、海、岸、漁
家、前、以、為、知、之、被、言、如、此、海、之、度、亦、霸、府、近、海、之
進、港、有、之、時、他、國、之、情、實、之、不、通、之、衆、廢、盡、廢、之、大
海、城、見、聞、之、事、加、競、之、一、之、怖、之、懷、之、驕、怒、及、之、難
計、之、自、變、之、進、港、無、用、之、自、國、兵、備、之、應、接、之、衆、廢、護、衛
之、方、便、止、之、由、濟、之、不、當、尤、之、為、大、用、按、預、之、其、不、在
成、以、物、又、海、岸、復、傷、之、後、也、儲、候、之、任、也、一、之、弓、槍、火、繩、院、之
各、國、之、法、則、之、任、也、以、先、隣、國、之、事、也、一、之、水、之、大、洋、海、路、三、方
余、里、隔、之、美、國、應、接、以、均、之、各、也、競、自、然、之、人、目、之、驕、一、之、筆
我、之、多、之、自、美、日、法、之、武、官、之、貴、賤、之、無、差、別、無、隊、之、
平、日、門、戶、之、出、之、小、大、小、佩、帶、之、故、兵、制、之、恭、平、之、不、似
炭、硫、之、從、之、煎、接、之、良、性、量、之、致、取、得、之、也、之、交、易、不、許、交
之、產、物、他、之、借、不、足、故、一、之、今日、至、之、其、實、益、顯、也、遺、法
之、商、海、之、必、難、廢、也、他、之、玩、諸、物、之、勿、端、也、玉、寶、之、
金、限、之、之、不、送、遠、東、之、使、節、之、是、費、金、之、也、不、願、使、少
之、無、差、之、自、由、之、之、遺、好、意、之、厚、也、一、之、萬、之、亦、存、之、自
之、玉、珠、寶、之、之、以、禁、也、生、前、者、之、通、奢、侈、之、流、也、自、然、之
之、物、難、制、也、之、各、之、交、易、金、銀、之、不、限、別、然、無、用、之、若、貴
之、意、憤、懣、之、余、之、軍、艦、之、各、向、之、自、然、之、風、俗、之、法、律、不
之、之、何、可、之、無、之、條、不、得、止、披、望、執、說、累、世、恩、顧、之、武、臣
之、率、之、敵、對、可、也、
列、國、之、通、信、之、也、一、之、法、答、之、然、亦、之、奉、存、之、力、之、一、也、如、此、也

事ハ多ク、可成、事有、事去、第一、然上、も、事、後、不、改、無、
故、軍、艦、を、お、催、邊、を、窺、ひ、於、て、一、宗、早、是、非、に、不、及、候、に、
事、有、候、に、
日本、國、の、力、を、盡、し、寸、歩、も、不、退、安、
危、を、一、戦、に、交、は、し、外、に、無、法、方、事、有、候、夫、存、先、年、魯、西、要、
也、右、同、指、し、込、於、出、如、此、許、若、難、お、成、者、也、作、事、由、兼、及、
以、若、所、に、出、例、も、多、し、候、に、以、答、に、趣、意、を、貴、國、と、通、商、等、に、
候、存、候、也、下、等、に、使、价、を、以、中、に、趣、意、一、改、承、知、以、成、
於、如、命、對、岸、一、國、に、事、有、夫、等、一、所、に、至、撫、に、此、に、見、
如、以、兼、知、元、來、

祖、法、に、事、有、其、身、及、人、に、是、を、破、り、多、き、才、一、
祖、先、に、不、お、事、一、國、に、民、心、も、甚、以、不、後、加、之、先、年、魯、西、
亞、國、王、に、同、指、し、込、有、候、に、此、件、に、
祖、法、に、許、を、以、答、發、事、有、候、に、此、件、も、有、候、に、今、更、貴、
國、を、取、結、し、以、魯、西、亞、り、も、大、信、義、を、失、ひ、以、折、角、に、此、來、
論、甚、に、氣、毒、に、事、有、候、に、此、方、内、朝、に、所、在、に、右、
之、通、無、檢、子、細、厚、に、賢、察、給、候、度、に、其、内、に、中、越、に、條、
貴、地、に、有、若、語、に、漂、流、に、船、此、方、に、着、岸、給、候、に、罵、り、吟、味、
之、上、貴、方、漂、民、船、に、無、物、に、於、て、是、を、去、り、自、南、を、以、和、蘭、人、
を、以、主、國、に、獲、送、可、為、致、候、に、此、後、に、以、安、意、を、有、候、に、
如、此、に、答、に、
仍、故、に、於、て、一、日、也、無、一、儀、に、以、候、に、
大、軍、を、待、候、に、以、用、意、專、一、に、諸、大、名、に、以、觸、有、候、に、
聞、し、傳、豫、備、而、是、極、に、以、事、有、候、に、此、後、に、
誠、恐、惶、謹、言、

七月

尾張中納言
慶忠

中ノ所ハナク有ク文章

本文書跡ハ後
公邊ノ尊ハ亞墨利加ニ下ケテ其徳布意
ニ如ク奇別ヤスキヲ為ルル本文所ニ其意旨
理多ク行リ上

凡守御ノ制ハ必攻ノ勢ヲ不持トシテハ石叶ノ義ヲ存ルル
何處ニ是迄ノ和氣ニ似テ彼ノ海上ニ自在縱横ヲ禁シテ
忍ヲ把一トシテ事ハ難叶自然ノ邊一方ニ其成退縮
ハ形ニ易成隨テ守モ金ヲ難得ル半々トシ必能シテ存是
追モ大體ハ瓦高ノ儀ヲ希フテ致ルル事ハ官事今般渡
東春朝節モ差迫リテ其未迄ニ其連モ出ル事洞練ノ
古手順ヲ難行爾ハ同ニ今不中ノ以テ此上古用意不
言ハク其何モ法自由成儀ヲ存ルル和氣日少積成早
幕朝ニ勿備諸大名モ其器ヲ持テ其造船ニ其
其何由存仕存存且和商人年々交易トシテ持渡
ノ品是追テ毛禮羅紗珠禽陶器等々其用ノ品ニ其旨以
来ニ其能又ハ大蛇等志交易ニ其年々其積少積仕存
事ニ其存

一今般渡東春外折ノ大諸侯等古專ラ其器其用ノ品
伴件少儀代少儀本物ヲ却テ其後苗も少く其少ク其起凡
少少後取苗も其も其少ク其第一其少く其不平積ルル

均不可測之機也 出外仕百費との事も無くと頗る案思
上旨逐一以案知之は後之了事に依りて法大事も候
中述の全神西國東國濱海の大諸侯之持國に海防も
能く骨折る候事一減を役を寛く候事方之然に守成且
當時の支情何れも難中候事も亦西要も牒に合
所候事難中候事松前也に押し陸奥守指別紙に
候事も成事と存候事心附候事不願愚意に述
候事

尾張中納言

別紙に上旨今般に悉答に由不致候事
皇國の安危に關り候事條馬に由條定に上旨に法變
着候事

天朝に
浩奏達候上旨 仰答に候事存候事是
等儀を素由の事と存候事為念に上旨別紙に件に并前文
に趣去不肖慶怒甚憚り多古候事法下問候儀且
國家の一大事と存候事無差扣に上旨誠恐謹言

書上

浦賀表は渡来し亞墨利加船の差上書翰和解写式冊
法達しお成通商の儀は是迄の仕来り有るに許容し可
否に依り外夷の者は為對し失辨を以て無
大小名を存し手前も有る實に國家の一大事にして
一語の利害得失後來に可成り厚恩意を以て十分
申す存行又書翰浦賀表に如何し為法達しお成の儀
一時の權道に有るに右に不は泥存意し趣は申
す存行の書付を通し趣何事も水戸殿前中納言殿
達と然る交各記前中納言殿と海岸防衛節と存
登 誠之好は 仰付るに前中納言殿存意し
趣は我に在り不はお達し父子一體に致し有るに右水
戸殿と別殿と申す存意し無し而しては三家に

浦賀表は渡来し亞墨利加船の差上書翰和解写式冊
法達しお成通商の儀は是迄の仕来り有るに許容し可
否に依り外夷の者は為對し失辨を以て無
大小名を存し手前も有る實に國家の一大事にして
一語の利害得失後來に可成り厚恩意を以て十分
申す存行又書翰浦賀表に如何し為法達しお成の儀
一時の權道に有るに右に不は泥存意し趣は申
す存行の書付を通し趣何事も水戸殿前中納言殿
達と然る交各記前中納言殿と海岸防衛節と存
登 誠之好は 仰付るに前中納言殿存意し
趣は我に在り不はお達し父子一體に致し有るに右水
戸殿と別殿と申す存意し無し而しては三家に

場柄を以て涉越し、庸之に存身其節、後人其内、容れ然し
上下通し、左に下り、右に上り

扱清國朝鮮和蘭陀之外、雲國通商、民性古より厳重
之を制禁し、其の旨、聖國人尤長崎表に渡来神妙に、
以て容易に難及、其の法、節度守り、如く亞墨利加人、
其の國禁を、取らず、浦賀表に渡来、恐らく、其の直に書翰
差上度、分別内海、系入空抱、亦、浅深測量、
殊に統領に書翰を、天子に、限り、お用ひ、字面、
お徳水

師提督に上書、七、頼り、趣、
艘に大軍、船速、渡来、可、お致、
改、お成り、
之、振舞、
系入、
自然

法威光を、
之、
南、
慶長、
伴、
細、
教、
右、
禁、

一切所行の事は、内書付し通外表に者なきは為 對法
失体も無し大小名未の返も強増

御威光之程は畏れざる可き所存に夫人元上は口國禁
破犯一新規之程お企不礼之書面横儀に振舞儀も法
見満ふおぬの上を實も少理解を兼伏早速帰帆可致節
より先迄は富強の濟り利歟の之念より夫人を以て民故已也
之非分と不顧却る程少許容無し儀と憤り軍船數多
渡來戦争仕懸る所幾重も由手厚く之を逃隨り國持始り一
統に覺悟お家々指詰觸にお成考人古より戦争仕懸る所
狼藉し振舞有るなり無二念お御考人尤不殘致返治
り後少仕向は内府の方より之を尤兩九返り之は火災且又
御代御考の法事多き所武後内十分不仁為は内府通て
諸家之儀は連年お傷居る向は不少の所前書し通は治
定より之にお居るなり此上兼船渡來以て先此方より容
易に打拂ひ受て先由指は逃應接人少撰幾應儀恒後
少理解し金物帆為は内武後少整比才文政度し振舞
程又も 御出方より少考居るなり此所並振舞急し由手
唯ふ一撃の之に少考居るなり此所並振舞急し由手
左右等の内實平徳成専らふは此に由る夫人尤益控り由券
り大小名其外一統し人氣二年に歳居る旨美し一之節不
覺と取ら儀何れ難計 拙又の内實専ら内武威の合表
向稔便し由取中にお居るなり 兼人をも自然
御威光に畏れざる仕第一理を考し不仁及なきも此方一統覺
悟者 故法防備方新編す 實は内書付し通國蒙

此一大事也。其切に西場合と存する如く又廣く
衆評西居一古所至者一に指し、西居中居中居一に
水戸殿に中付に

八月

中山備後守 信守

海防愚存

一和戦之三字は、受著

廟算一定始終活動無儀先急勢

と存ふ事

本文和戦之利害戦を主と致すは天下の士氣引立候一
且敗をとりも遂に表戦を逐退す和を主とすは南征北
征之措くも天下の人氣大に由るは後滅亡に至るは漢土
歴史之上に明證有る古今識者確論有るは其細不及
りて見今試に其大略を論じ、和出人の多き節十條有
るに

神國の幅員廣大なるは外夷を早竟征古
神功皇后三韓に征伐中古弘安に蒙古を退治近古文福に
朝鮮征伐慶長寛永に切支丹を禁絶其明政を威海外に

振(指)かよ有(と)致(す)時(度)彼(来)く(ア)メリカ(夫)は(制)禁(令)を(為)す
な(り)浦(安)一(志)入(和)睦(合)墨(白)旗(号)出(し)押(す)移(書)を(奉)り(割)
内(海)意(込)空(砲)打(射)り一(昔)修(る)測(量)近(路)其(瑞)傲(を)礼(始)未
言(語)回(行)る(實)聞(諺)以(来)し(國)恥(と)も(言)は(れ)城(下)の(盟)國(の)恥
と(新)り(如)有(る)通(商)制(禁)を(犯)し一(大)城(館)近(る)内(海)も(意)込
我(を)お(し)や(わ)一(我)を(要)し(夫)賊(と)し(退)治(せ)る(を)な(ら)ぬ(者)に
致(す)は(し)亦(し)海(お)は(れ)る(は)り(倅)一(法)國(作)は(す)お(海)
P(当)時(是)變(る)不(可)和(の)一(条)も(切)支(丹)宗(儀)

清(當)家(は)法(度)の(才)一(お)は(れ)居(國)も(東)近(高)札(建)並(如)夫(て)
之(文)政(年)中(於)大(坂)右(宗)門(内)一(お)私(は)ま(の)有(る)一(以)仕(製)お(は)
邪(教)毒(著)く(油)は(れ)不(お)は(れ)況(や)ア(メ)リカ(新)に(近)付(り)
お(は)り(り)何(程)に(制)禁(せ)ら(れ)る(も)自(然)右(宗)門(再)起(し)機(力)
必(然)一(儀)は(倅)祖(宗)の(神)靈(は)不(對)し(一)証(書)一(是)變(る)不
可(和)の(二)一(条)も(我)金(銀)酒(類)等(有)用(に)不(足)な(ら)ば(彼)は(羅)紗(硝)
子(等)各(用)の(物)不(換)へ(大)害(有)る(小)益(な)く(皆)和(蘭)館(の)交(易)之
以(併)止(る)も(一)於(時)勢(を)於(る)和(蘭)館(に)お(は)り(又)各(國)の(交)易
亦(蘭)に(お)は(り)

神(國)の(大)害(は)上(に)有(り)是(變)る(不)可(和)一(三)一(条)も(シ)ロ(シ)ヤ
ア(メ)リカ(ヤ)等(先)年(の)交(易)を(常)と(為)し(夫)洋(客)等(に)所(ア)メ(リ)カ
夫(は)亦(洋)客(を)送(送)第一(シ)ロ(シ)ヤ(も)一(を)難(知)り(何)を(以)て(所)
一(以)て(送)り(し)是(變)る(不)可(和)の(四)一(条)も(夫)國(人)外(に)悪(心)無(し)
交(易)之(亦)洋(客)等(に)於(て)何(も)一(以)て(難)知(る)は(俗)を(一)
唱(ら)ば(先)初(先)交(易)を(以)因(と)求(遂)る(邪)教(を)弘(免)又(一)種(の)
難(題)一(掛)後(彼)等(の)國(風)も(有)る(遠)く(一)寬(永)以(前)邪(宗)門(の)

患ひ近く、清朝鴉片、乱前車の覆轍、是改る不可和
五ヶ条に萬國の形勢往古とお違致し、吾我
神國を領國の趣意を守り、大海、孤立致し、後始終を覺束
管矢張外國に往來し、廣く交易の通し、方不然、説蘭
學者凡々と竊に唱ひ、教ふは、

神國の民心固結、武備充足、中古の國勢も回復し、
以て外國にも抑服し、恩威を弘め、事成り、均先南時
太平洋游惰の風俗外國に僅に數隻の戦艦、海軍を起し、人心
恐怖し、彼を要せしむる交易お始り、は、外國へ
海、遠畧を施し、事極真に、席上の空論、是改る不可和
の六ヶ条、浦賀、彦根、若松、守衛に、仰付、既、度
振、會津、家、素、大、天を犯し、七八十里の遠路、日夜兼
行、馳、行、外、内、海、警、固、命、大名、連、人、數、繰、出、
向、も、亦、亦、特、の、事、は、交、夷、賊、内、海、無、入、我、領、測、量、は、致
は、る、也、打、拂、し、は、不、和、成、諸、國、の、士、民、空、發、奔、命、の、一、應、れ
は、振、り、人、の、解、折、し、勢、は、有、く、是、改、る、不、可、和、七、ヶ、条、に、長、崎
海、防、黒、田、鍋、嶋、は、仰、付、は、後、清、國、和、蘭、院、の、以、子、南、の、
一、無、く、也、外、夷、の、以、自、自、の、一、多、く、は、浦、賀、近、邊、の、外、夷、の
輕、出、は、取、遣、お、妙、振、え、間、是、に、使、身、を、以、り、お、為、家、無
用、は、法、蘭、所、蓄、は、仰、付、多、く、也、お、亦、一、為、家、の、氣、遣、は、何
く、も、是、改、る、不、可、和、の、八、ヶ、条、に、以、度、夷、賊、の、振、舞、眼、筋
い、多、く、は、是、の、一、匹、夫、の、心、外、に、存、か、く、是、無、礼、の、夷、賊、は、打、拂
も、不、可、和、は、法、臺、場、に、備、は、何、に、入、用、に、多、く、は、我、ら、内、に
お、致、る、者、も、有、く、由、實、地、に、夷、賊、驕、傲、し、振、舞、を、見、は、る、也

いかに海右北左に存るる小民ありしむき此の
中国恩に沐浴波に居る故と常と親交事といふ智く匹夫
きく右に執るに亦拂に後亦定まらぬ成候寛宥仁
柔に所至のこゝ下るに懐合不令故奸民に威光
を不思美心を生しむ難計是變不可和に九ヶ条に夫
賊打拂にふき

祖宗に細注結文政に度重なるに作事に以て懐合に
固より戮の方の亦定まらぬ威に何をも太平亦續き
武備に備りしむき故容易に夷賊に氣を傲りて其禍難
測其節を不ゆる已和後取結に相成に格に益
威光を損に故先く高節に相て思夷賊に氣をふるや

此名至甚内專ら武備に世治らるに在道に自ら高に全備
に上流旧法の通り炭重なるに任出りしむき尤に備に高節
宴安姑息の人情朝暮に勵に威にふるに必至に人氣にお兼
以況 上より武事を示すに幾年を歴に諸

家武備を整へ候に大無覚東既に寛政船夷騷動武備
に世治ふるに始に高節に不ぬ威又去寛政年打拂に宥
豫に任出早竟先の外夷の氣をゆる先を以て武備に調の法
趣意をおらんといふ十二年の百諸家の武備格別に行届
ら候に存候に後亦賊渡来に一統狼狽致夷船滞留申す
一本氣におらんといふものありしむき任出帆に平日の通り心は
格に任出り候に一統又無事にあに候に取集る武備に
直に散失に致し候に伍令を縁の下に火の通り居るに不心付
火防の事も忘れ居るに同様の安寧に浅る事士凡に去

廟堂にも聊も和議の由合ありて好む日、和議におめりたるも
人氣引立不し、從て高師喜介の由南も皆文具る軍用
適し、中、百、教、今日も、弥、打、拂、之、方、に、由、安、者、に、お、め、ら、る、也、
天下、士、氣、十、倍、い、多、く、武、臣、不、合、し、れ、お、整、へ、儀、影、響、が、
發、早、く、了、す、し、た、ら、ば、也、
征、夷、の、由、大、任、に、お、め、ら、る、也、

諸國一統武家の名目も、お、由、三、段、は、是、變、り、不、可、和、し、十、策、
に、尤、以、肝、要、の、急、務、に、お、和、我、の、利、害、右、に、粗、お、費、し、
い、は、先、是、を、知、り、易、し、是、行、に、難、く、衰、弱、の、世、に、兎、角、和、議、流、
防、我、を、好、し、不、し、我、を、こ、ら、し、い、者、ハ、事、を、好、し、乱、を、樂、し、は、後、
終、言、改、し、甚、憂、に、お、り、い、は、我、を、主、し、い、者、を、罰、し、は、敵、方、に、
し、を、い、し、し、和、議、を、取、結、し、遂、滅、亡、を、招、く、類、笑、止、す、所、に、
神、國、勇、武、に、俗、一、且、
廟、議、は、一、變、に、上、に、右、左、憶、病、の、小、

人、ハ、有、り、百、萬、の、兵、忠、言、逆、耳、良、藥、苦、口、姑、息、苟、安、ハ、人、情、
の、溺、れ、安、く、ら、故、兼、り、由、用、心、を、し、一、且、由、安、定、に、上、に、始、終、由、動、
を、し、儀、海、防、を、了、ら、る、也、

一廟議戦一字の由安者、お、成、上、を、國、持、初、津、浦、迄、大、号、令、
は、
作出武家の、勿、論、百、姓、町、人、迄、覺、悟、お、極、
神、國、惣、体、の、心、力、一、致、為、政、に、儀、可、為、肝、要、事、

本文、号、令、に、儀、を、由、安、に、取、回、り、て、如、才、有、り、百、萬、の、兵、忠、言、
に、お、成、ら、る、由、趣、意、貫、不、し、若、簡、易、明、了、愚、夫、愚、婦、迄、も、憤、
激、だ、ら、ぬ、人、に、必、至、し、覺、悟、お、め、ら、る、由、仕、向、も、有、り、後、に、奢、侈、遊、
惰、を、禁、し、質、素、儉、約、を、勅、し、類、南、洋、に、急、務、勿、偏、に、し、儀、先、に、
一、交、易、由、洋、人、氣、お、由、み、ら、る、を、目、に、儉、約、者、の、由、留、有、り、と、思、し、
自、然、奢、侈、に、趣、可、し、打、拂、に、由、議、定、に、お、成、ら、る、一、統、の、人、氣、志、

傳の合質素儉約、勿論若事古の武士風、立派、
保享保以來、は美事、中興以上有る、
事

八日も少活、如く太平、打續、高世態、
戦、難く、和、
易く、
戦、
或、
成、
の、
斗、
公、
和、
事、
事、

一 槍劍手誥、勝負ハ
神國、
實用、
本文、
神國、
ハ、
堅利、
者、
院、
地、
壯、
長、

神國の長技たる、
ハ、
堅利、
者、
院、
地、
壯、
長、

て如く電光石火の如く血戦せし彼夷賊原を度せし人事掌
の中者原に去れ

神國の武士形しんとの才一槍劍二技練磨せしん河へ
らん知ん小諸家今以て契を守り或は花法を守り試合戦
專をもて或は試合も又新契を生し勝負の命令の争ひ真
劍ら成難き業を講ずる族も有し是も精は世傳有し
諸家一統実用の槍劍を講し道具の輕重長短も真劍
に基き粗ありまほき事

本文及令ハ彼ら船小乗入對談ししに於て款待なり船將と
突殺し又上板の上居し打寄出るを長刀太刀等ら切
殺し帆繩を打拂せしん又左右前後に何程の火銃を仕掛
至其内に向て打事ハ石叶上板の上居る人ハ内が見
さしハ炮を打するも不成僅の人數を大艦中の人ハ退
治し

當秋出帆の蘭人命し軍艦蒸氣船大工按針はるを登り
用前丈取揚尙又大小銃炮近來新工夫も有とあり是亦
取揃國許に在り治牙不時積立献上仕るは沙汰方
夜事

本文に倭外國に献上為致るを中外見せしるし説も起り
しは外圍に所長をもちし用らるり却る

神國の廣大形しるあり既五種博士を始種人の職人
九三韓に献上為致倭古史の例あり聊若しからざる
等とあり一体爽快と新工夫長し相右細工を見取
製造以るし

神國所長に不蒸氣船をも追ひ彼、勝り製造出来可
らず一委細を製を明居るゆを彼をお敗れ心付く事
一卷を得ともす。和蘭の交易一廉の利益を兼及は
軍艦も持渡りし事。此研も不容易其年の利益多く
却る莫太の利益。す成る有司の過憂もす。有るは
船の利益平年の通。お治りも別軍艦も製し。と
莫太の内用。す有る。和蘭交易。利哉軍艦も
遍。す。見透。す。損失。す。以。す。有る。有る
お。公邊。す。始。大名。も。名。限。小。意。員。數。を。限。り
大艦。す。海。す。成。西。國。大名。も。皆。海。路。す。浦。賀。に。集。勤
い。多。り。莫。太。の。失。費。を。省。き。い。の。り。形。ら。ん。右。艦。羽。田。本。牧。迎
内。海。に。掛。是。非。常。に。す。り。直。防。我。に。お。用。い。り。如。是。後。夷
賊。容易。に。乘。込。り。存。事。も。多。り。官。お。於

公邊 近京大坂遠國勤往來を始末の運送号右大艦
を内用はゆり、永世の利益を存海防の要務我艦大
銃を主り、其事近來雅も能く是は方の職人、す
無益の年月を費らるるを献上を命、ら方簡便と實用
に適す、存和蘭院に献上お成り上り、い船枚五集
お成り、その後、お成り、方、此、篇、に、於

公邊 此内用意有し大名も心掛さるる、手操互可、
材木の大小長短細疎、多少あり、當時入津、以、
蘭人の掛合、大略お決り、す、

一 銃砲の技近來、進、お開、は、未、外、夷、に、精、妙、難、及、は、
公邊、以、始、諸、家、も、精、く、研、究、以、り、可、成、文、銃、數、を、滿、

火薬彈丸も存分備置な事

一 本文銃礮ハ攻守才一ノ利器ニ彼專ラ是を以テ我を劫
時ハ我も亦彼を應ぜんとハ必ズ之ヲ以テ鳥銃と遠大礮と
未盛ニ石乃肉ヲ平ニお城ハ故貫目以上の大銃ニ之を具
上備來の器ハ車架銃耳ホ全備セざる者多ク從テ發
炮の術も實用ニ不適との多ク以テ諸家皆實用の器を
鑿一實用の技を講一ニ發鑿賊の妙と心掛を銃
皆雷竹燧火を用ハ有ク夜ハ近來洞杖吹才ニ減少
發一ハ又假令寺ニの銃成潰一ハ近少ハ有ク亦一ハ
せめて火銃燭臺ホ有用の洞器ハ潰一右品々洞器
製ハ儀以來ハ制禁ホ成尚又蘭人の所渡一の洞器
若留ニ成以テ洞杖格別不足有ク亦數ハ抑劔槍と遠
銃礮のニ有クハ國邊ニ其詮言トハ何鳴ク
揚火ハ白菊銃ハ花火ニ類一各制禁一又尚又諸國ハ
其為命造砲硝存分製造有ク夜七年の病三年
のものをきを求ル如ク一日後ハ故々一日の不自高相
成骨何を速ニ所法何ぞまじくハ

一 御領私領海岸要害ノ場所ハ屯戍を設け漁師等
取交士兵ホ備置な事

本文海岸の場所何處の地も油所ホおめハ如夷船渡
來の時ホ城下ホリ一人數名出ルハ機舎ニ後ト平日人
數名出多クハ入費種兼自然少ノ備置致一ハ成
行り皆土地の漁師等を組織ス一外ニ人城控ハ少ハ
折者立郷士等身ヲ持者ヲ隊長トシ折を見合セ

簡便に訓練致し若し是の軍切に是をかくしの恩賞
つきて分平生厚くし合ふて師背丈夫殊に海上飛
練に者先故あつこれの御致し者も今多し城下陣屋
多し軍人教員出の迄の一支にお成多し尤要害の濱に
右に外城下遊卒等の内を人を撰ひ屯戍を設け平日
用を文武の修飾等迄致事の時右去兵を指揮し大砲
軍槍劔おる夷賊退治致し仕方も多し相右屯戍に
制度出兵の組立を始或は格式を以て或は双刀を由る
或は扶持を與へ或は天役を免し其類其國風家風土
俗に概一概小端に難し其を法するに實用を主とし
永續に爲るべきなり

九日晚景德

別紙

一昨八日にて條書に注致し格に少く故拙考拙文且
取急昨晚腐眼に思ふ故内見せし清書に右等し下書
に修らるる追ふるに返しし格に少く存意も以て兼に
知又西城上金等の事も昨午に今日の内用
透りし格に少く同に内用しし格に少く存意も以て兼に

十日

景山

福山殿内件

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

齊昭公

海防明誨論

天主の害誠小悪むへき事あれハ

東照宮

大猷公の舊典をちる由めきたるも表狄を近

はく屋うへん若近き一来るん三三二三小打碎き覆目を見

せ

皇國の武勇を海外ふかやうへ一たと一為り斗ふ夫狄来

はた聊親一も貨物ふと交易あるも残許を登るの上も下の

残がく諸者大和魂我磨き天下の蒼生一人も残がくうせぬ

教近ハ

皇國乃地夷人不踏せ向一と思ひ安一七相を防く為事制を

いふも厚く心を用い汽船艦の備なをゆゑせふ此へうん諸

太刀此業高るへうん鬼も角も萬人心を一つ一力を合せし
神國城守る毎し是我々君朝か夕か男建しして
言聞せむふ所りして我々藩の夷狄を憂ふ事皆是尚一
一説也

東照宮制度を定めり西洋の事いまた詳ありされり
少於夷狄を近つる事又我國より夷狄を去り遠き
國くと遠く納めり或人位ぬ國を城新し開き其地に住あり
由る由る性あり物の有無を交易し或海上鯨釣採り
て軍用兵糧の貨を設り或くに人乃國を窺ふなれ彼ハ
賊を費きたり海上漂しぬ我々是る為不殊更海邊
不出陣して空費日を送る徒ら賊貨糧米を費しぬ賊
も愚ある事也又我國の漁民かと荒き浪凡ハ漂き
幸も命の助け夷狄の地も着ぬ賊彼夷人遣は是を送り
来らん時いり小稱き夷人あり我國の漁人諸尤打碎んを
はねるべき業たりとされし

祖宗の制度改め交易する事を由り我
君もいと大なる船を造り大銃を備へ外國より打渡り交
易を相しとあり此國をあたるとんハ
神國北城いよ廣き中ぬる一徳小

神國の中にお在て海に果出す事不能ししてハ城ハ一説
城しぬるをさしり論するに危き業ことし不是二説也
我國ハ金銀銅鉄米穀布帛何れもとぬよあり是彼
交易を重むるなり交易を不免しおて事の何れも冠
をあら事有ゆるん然とむるふ彼を重むる人とせ

いかにある寇も難し我武備整いならんかと思ふ不足らざる
述れ今太平地は代久しこれに防禦の備候も整えらるべ
らばされ先交易をゆるす彼心を慰む隙も我國乃武備
を備へ候事を来りぬる思ふ不足らざる其時小至りく交易
を停止せざる安き事候らるべしとの説也

君是を少くも言ふ交易成許して其いまま武備を整へ
ると臆病もの口實也我一代小事なき始と我心も出さ
祝成候し北条蒙古の使を許三代將軍の船を焼人
を隙しと皆我國の覺悟を定めむる也人も覺
悟定めれば武備整へらるも敵を防ぐ不足らざる武備
整へらるも然るも夷狄と近は希交易を許さんか人も乃
心由らぬいばらんと武備整へ時や有へき門外に於て
盗人を引入れて来りしとみあらし盗を防ぐ事を心せよと
いふも志すものもかれば彼大膽狡黠の夷人は彼を
術を尽し邪教を心人をあつし事境も掛たる如し
人心弛く武備も怠り邪教も廣まりたる人かを隣を嚙
むとも及まずさよがれらるや又大なる船を造りて外へ渡り諸
國をまわつて後へんといふ事いと勇まふ似せとも我はいと危
き事と思ふべし我國人怪懼え其心物も移り安し欲
情もくして思慮淺しありといふ夷狄は業も習い國
も渡りかば渡りしも務の真似する鳥小むといふ害のも有る
利あり候し交易といふは是ら彼と取かちし互利あり候
持よれ今我國は何も事もゆるしぬ物を彼國も持渡
る者多くは奢と云ふむる無用と云ふ也阿蘭陀一國と交易

ききき(識者の患るある内諸蛮戎引入く交易の外
よ大船を出して外國小交をもん必夷狄の風俗も移
され
神國乃大害をある事ある何れも成へし唯彼の大
船小舟を寄来りし我國の陸地よの有り候も彼を待
彼に逃れ我にかさし船をこれに追討するの叶なきは口折
き業ある大艦を作し事鯨を取并穀を造る事不
事寄也常小船軍を習せしむるべき事成へしされ
外國小渡り事必俾止志あるべき事也

嘉永七寅春

東照宮の上意にも差支りたるもあき本より法の形勢
事人否とのより法意より考ふる敵國の撰拾三代將軍
家の法代と考へたるも無稱昔の傳の法法改用いし
て敵國事情を斟酌志ありて未長く天下を守り
あるはや執法の役、法法度を守り其役目速尤至極され
たは舊法をよき形をこれと戦年、負ても互交とす理
に有るは是とす

將軍家と法不見りて變通し法改改を希所也第一
佐渡隱岐對馬八丈松前帆夷琉球も彼らも入て津、
浦もあき来りある望守り船艦有るも多りとも六ヶ敷可
有し況や船艦かくしてはゆりて是は取かきさるべき
や海上も別れはるる船を陸より防禦するも容易あり

を奪ふまじくや彼の船を奪われ、彼に陸を防禦せしめ
藩を攻め取らざるに甚難しや。命たふさぐ
武士の持前故如何に船をも出船はせられ、惜き勇士
を莫大に死去せしめ、事は事見無事とて、永く世を義
一に奉のこを、其後、到るに、必を奉して叶ぬまで
出船をばしめ、何に國をも出船せしめ、物ひたまふ事
至るに、堪多し、其海役も、廣く、一に、自ら
受命、命彼奪へ、一、奪を、取返ん、為し、出船を、実莫
し、考へ、上も、望、守の、船不足との、事、又、右、右、の、節
を、定置、たまふ、三、家、の、向、向、大小、名、近、其、心得、と
志、せ、る、一、何、の、道、大小、名、の、戦、艦、や、船、等、一、不、成
多の事、又、我、國、何、は、淺、色、有、り、成、た、系、掛、て、や、る、一、外、國、の、為、の、
上、の、者、と、一、又、遠、い、成、人、公、色、も、一、自、操、決、才、多、く、制、
作、志、の、い、海、岸、の、大小、名、も、制、造、免、し、一、の、一、也、每、度、一、
た、れ、先、府、中、の、人、々、諸、國、の、米、穀、を、輸、て、命、を、續、け、
前、文、の、如、く、寫、し、中、何、の、人、出、張、を、構、へ、の、海、洋、に、
運、送、を、防、ぎ、時、く、浦、に、帆、影、見、せ、大、筒、も、あ、り、
よ、そ、府、中、の、人、民、舂、拂、米、穀、は、不、足、の、船、も、手、を、下、し、
有、り、也、や、本、文、

東照宮

上意、お、萬、里、の、海、上、一、走、り、お、成、り、万、油、既、出、る、
事、あり、是、覺、悟、弟、一、の、仰、也、兼、る、に、軍、あり、内、に、用、心、
一、の、事、あり、臘、冬、也、出、来、よ、り、合、り、先、年、齊、
昭、領、分、る、鯨、打、の、事、一、免、し、一、の、船、は、常、に、船、中、を、度、

「お掛見」小舩板まゝに破れ多りき。孝子年功國以來其
目以上の筒自身を打試し人も度々為り或時濱々
寺座敷も四十間先を走貫目にして自分打試した敷
跡を入る所、障子或三寸程も不致碎け五百斗も破
飛散陶器物杯、柳の上を積立し、亦多く落碎るや海
防の用も難成大舩も多く有し、不及本舩の間に中々丈夫
多から便成成べし、あれ先大舩は玉置を易く小舩は重り
悪敷此方もお出さんには大舩を取巻打屋し、其中本舩
も玉置の入用あれ、本舩は勿論備へし、又外海を豪越
しは世百以下の舩を波を二つ交り故動きて不便なり
波は多分七尋斗よりあれ、三七世百あるは本舩乃
波濤を多く渡き難れ、萬一日本近き島々奪大舩の制
禁の儀外國の渡り邪宗の引入るを患の上斗に成無
し、水深を有し儀、お出さん思ふ所は、或百余年の由
恩澤より三家儀代大小名、勿論外様迄も其儀有し
不致能合心得遠く者有し、多し此方大舩は舩位を
防不致成福を、或は英國舩千万艘押来を、何して
防禦し、多し為り成去
公邊は格別三家儀初、本舩の分散を以て、定は成た製造
免し、多し為り成、其領分、自分舩の事故三家は
本舩三十艘位、其餘は大名、右に准し、夫、為り成、小舩
は儀、教へ定めて、此
公邊は舩の外、失費も無し、非常、此方、大小名は命し

て直に法用光るは其の上
公迄小戦艦ありは双方有るも同格なり第一只今我
心得遠く者有る浦賀と桑込人と此より不至りては其法
是迄く船も桑込人等一人名ありは氣をひの為海防に
兼略しして船の製造 此免多しは造成と云へ
英國船の患為り時ハ鬼も阿波迄の勢を以て大船
乃制度変通 一公人是有るは呉と我陸軍乃
船双方より有るは同格なり大名一懸念しは其
發南より一は只英國船防禦は手薄なりは當りは若
國家の良策は非何なるも明君の明政を奉作也
扱又近以紅毛本國より使船を越はる戦争の仕組
見ははは定る難題 一上多しは此九一切洋客 一はハ
ヤも小然る魚 一先年抄拂止し命令有る時必賣
船渡来の患は有る不及建白せし如案日本武勇
衰へ多しは見振る事と足らり 一打拂
止るは漂流人松前より法は又ハ浦賀より法は能合此
上不到り新出の事第一姑云口内法は其中心を
ハ不此とも許容しは其尾は年々歳々難題
一上其内に此許容難成しは是を拒みは其概念
小桑して戦争と施し彼ら十分欲を遂人との企及
此ハ一切南國の有司より臆せし日本勇士を示し
度事也兵法も領分不入り不案内成内は打ひくより
所要と覺多し英國船度來ぬ内は日本の指子
とも祝き不結ふへは奸人有るも量り難れは以前に如

見掛次第無二念一打拂命令一なる事

國家上策光た之打拂て其第一戦有した禍少
ク度、来一上策内を詳ニ知りて内慮者出東邪

宗門も自ら行これ彼へ付まふ奸人多く成たる上言戦
争起るは天下大変成魚一昔を鬼も角もイキリ

も紅毛も横文字通用、國々皆一完の狐と見通
無二念打拂の事、秤要成魚一只今も千萬歳万

國垂美、物と号有し、括成ては安ら不お海をれハ罵
と心を用ひぬべき事也、凡制度法令の類ハ、第世勳を

負ふにあり又時勢よりして変通在るもの有武勇成
尊い夫状を近付履るるは神代より大道なり然

と云代、第世と括成て戒めを交りし、第世の大法也、大
船を禁一ぬ禁ハ時、依て定ぬる事、後世変通

此を待不也、然るも今の有司一時の法令ハ堅く守て
勅令事あり、第世の大法をば手易く動一て、至國

歩拂を止めるふると如何も、齊昭々苦心此不也何
率本文

東照宮 大猷公、尊意終くは股顧あり、
何一紀法事也

此度異國船渡米國家に法一大事ニ成り西暦の存寄り
 儀中幸極に任事難有に儀存右西洋諸蕃我國を伺
 い先後年中我度ニ中儀も西暦存今更別に存寄
 我無西暦抑我
 神州を天地に元首と爲る大陽の如く不元氣に始る事故に日
 之本と号す

天照古大神の宮柱ふとく天の日嗣此世に宸極と爲り
 萬國の乃ち如く如くは我々に使西荒に夷人と親に結
 い何の用らへき況や夷人の情態惟慙心深く義かく礼
 かく其智たくすくして四海を奔走し諸國を蹂躪
 一敢我國凌駕せんと欲を是世の人よく知るる彼ら
 只るは落入ぬ指と存るは防禦向に手落るるに指揮は

以上外別の工夫も何人にも限有るべき事なり此後
年寄たるも能くは作付給奉祈り以上

法諱

右の法書付の君達伺ふ節お見ゆし一は文字を取入る
よきあり暗記一退く徳年故文面白透誤字脱語亦
おとすまゝに成りしは敢て他見ゆし一なり

但是、水府先君齊昭郷土を以て直に以て名出由

今般亞墨利加書翰之趣有 法書付四通并右書翰和解
武州之波下今度之致

御國家の法一大事の利害得失厚思為仕假令忌
諱之觸る事も我ら不若見込之趣十分一上上重中は
位渡程も奉得其意に不肖の私儀得失利害も何分亦
兼りなく去存ありし上儀却る事延入る儀聊心底甘
り上亞墨利加書翰指見付交金會得我波兼實情
の交々如何に難事なり先書籍の面を敢て無理成
筋光お守りし上此方々各味に打掛等にお成りも暴成
法仕向に我ら高き中は是福を引出さ其れも存中も存
重る波来り先程に作取扱に総て支那阿蘭陀と外に交
易に涉る禁めり事ハ埃

涉先代之法旋此度アメリカ人内政扱録、内政時をイキリ又
等諸蛮國の追々法難題ア下り出難計の如く受ふに如く
處に打拂く、亦不々南然と云者、内政の久敷太平に
浴び人心當時の時勢海内一致に成就打拂、中後其
各覺東多移、指當に委て寛宥、法取扱に成、其
内、諸國海岸等、内手南武備、為重士氣、以て立、實、
お整、上々、彼、操、拍、才、少、何、に、神、武、之、勇、氣、を、以、示
云者、内政、優、然、と、存、存、右、等、故、不、顧、愚、意、存、上、上、
之、作、思、

上々涉明政、之、為、在、内、儀、与、存、存、以上

八月四日

松平加賀守 齊恭

今般亞美理駕書翰、趣、付、法、書、件、兩、通、并、書、翰、和、解、
武冊被渡下此度、儀、

涉國家之法一大事、有、之、實、之、不、容、易、而、之、得、与、遂、
熟覽存寄、之、亦、有、之、以、般、令、忌、律、之、觸、之、不、若、者、
聊、心、底、を、不、殘、十、分、一、上、上、之、
其、意、誠、
涉國家之法一大事、若、年、之、私、

一存之、心、存、寄、之、趣、上、上、後、も、仕、兼、同、氏、加、賀、守、了、簡、我、
下、有、内、在、儀、書、以、示、後、之、及、之、了、了、管、業、り、以、受、私、熟、考、
存、在、之、亦、も、同、格、之、趣、内、存、之、存、別、之、上、上、上、儀、無、由、
存、之、全、加、賀、守、同、存、内、存、之、存、此、版、存、上、上、以上

八月 十五日

松平龍前守 慶寧

此後理念不在海況也故當且又戰爭之由厥言中免
 一由成り必と外國之心配るを永年之為甚残念と到時
 存る物多し此等由免は 仰せ候と不意に時節死
 与存るに然来年渡来し節直に以成り成るに
 戦争之端を開くと難斗は成て五年を延びる
 無接は神合に 仰せ候 仰せ其内海岸の由
 南十分は 仰せ度候と存る 三年之延びて是延
 以所盡つ有る 存るに在る五年を以て諸國一
 統の南盤に以て必定に在る軍備未整の元来
 勇壯し人氣は度有打拂は 仰せ候も必勝に斗
 策も河社も一有るに在る奉存るに手南場所候も浦坂
 之中一は 仰せ其外要地は勝ては洋軍の上委細
 此 仰せ度 萬の英國に於ても日本人氣勇壯し候も
 再在るに及兼言に手南炭重に成るに 無礼に振舞
 信り及軍船に全備の上と通船妨ぐるに不意に
 下ありて其の上急度打拂は 仰せ方と然り候
 存る物又海防に手南は 仰せの上臨立一身に引渡候
 裁に者無に在るに之行届り及事と人心并に
 万に連枝等一同の人諸指揮は 仰せ度存る 仰せ
 以人新に候也上等の重急に公の在るに年輩と人
 登り了美國に事情も委細に以合均候 在る水戸
 前中納言殿の外に候 在る存るに海防
 儀に委任に 仰せ存るに念願に 此後之候に天下
 一由一大事、以在る彼に知り已り 知後、以不意に

此後多必勝之良策其以而百發百中者能
以評議之上也 仰出之於何分也今度真法
免之 仰出之於口國新之知也何分也入身也前文之
儀中上之實之恐怖之 仰出之於口國新之知也何分也入身也前文之
趣不致也中上之以上

但石炭至場所之儀之於又涉免不之 仰付方也

七月廿九日

松平薩摩守 齊彬

癸丑八月廿二日

上

松平薩摩守

去九朔日登 城之首先遣之了り力船之指出書籍
寫等被水渡此度之儀也

御國家之大事之為存無忌律存為之程十分中
上之秘蒙 仰奉畏以不有之私固也中上之程之儀
或無少所之儀也 仰付之上之不中上之也 仰入公御存
存為之程之儀也

一本朝之往昔之支那阿蘭陀長崎之通商之外吳國之交
通更之也 仰國新之有之朝鮮琉球之儀之品物格
別此儀之吳國一統兼之儀之知近年津之浦之句
論浦賀表之再三之吳船渡來就吏每之海防之儀之重也
仰出之儀之國之共之防禦專一之折柄也六月亞墨利加船
渡來也 無也 卒也 書籍指上右趣意也昔之昔今也

雖有武勇之法國、有以均能合戰爭、乃其也必勝
利、其以下、其又此上兩三年、其亦其、其亦其、其亦其、
武備不整、其且大小名領地取扱等、其面、其自、其而
其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、
武備を屬、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、
有、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、
不法、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、
其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、

一浦賀表、其備、其備、其備、其備、其備、其備、其備、其備、
等不忠心得、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、
其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、
大小名、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、
其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、

一市返簡、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、
成、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、
右、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、
作、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、
法仁、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、其也、

七月

松平陸奥守 慶邦

前大略

交易法許容を清國禁觸す
 神君法趣意有る故一日後早く清波定る漂民
 接恤し弁渡り清取上等と多と返箱を多し付る早
 蘭人の出託一此節出出さる方一然来年春来船とね
 待る不及彼國に對する一つは候理もお多し書翰趣
 此節は戦艦多向も難し必ず致し候は後一時候
 鷹の目と来春船の役の武備初届不し物前より狼
 狽の目と存る武備を整えざるを以て清輝豫方先假
 小西三年五七年の旨も許容有るは候
 神州の國脈絶へ前院ら存る右様武備撓亡は英
 政等し上等も忘足利氏に末世の時勢に如く成り

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

下款發洩才^三以^三唯今、内務^三以^三世話有^三未^三
 忘^三入津波^一、^三久矣浪浦^三質表^三近海、^三系入^三公使^三
 有^三故^三只^三今^三内海岸、^三不^三及^三内府内、^三町屋^三取^三拂^三武
 家^三諸^三族^三老^三少^三婦^三人^三過^三銘^三領^三地、^三引^三取^三金^三不^三已^三
 其^三予^三到^三、^三無^三知^三引^三拂^三、^三仰^三付^三金^三、^三億^三万^三人^三民^三道^三路^三、^三難^三
 儀^三以^三多^三、^三等^三言^三語^三盡^三、^三難^三言^三、^三目前^三の^三憂^三、^三其
 僅^三小^三差^三、^三至^三其^三俄^三人^三民^三、^三損^三傷^三を^三見^三、^三到^三、^三予^三に^三言^三
 唯今、^三内務^三引^三拂^三、^三仰^三付^三方^三何^三計^三、^三予^三に^三言^三
 仰仁^三惠^三、^三存^三存^三、^三且^三

上^三樣^三并^三諸^三法^三住^三居^三、^三內^三甲^三府^三、^三津^三移^三遊^三、^三
 方^三以^三然^三沿^三海^三、^三領^三地^三有^三、^三諸^三侯^三、^三不^三殘^三、^三暇^三以^三自^三國^三
之堅固、波、浪、以、防、止、仰、付、方、之、然
御府内、津、堅、固、之、萬、一、何、地、浦、来、率、起、也
 難^三中^三右^三、^三海^三岸^三有^三、^三者^三、^三以^三暇^三、^三以^三予^三、^三内^三府^三内^三
之、數、津、難、本、并、諸、令、諸、侯、之、十分、四、省、合、予、之、有、
之、而、予、予、予、

通^三仕^三方^三、^三以^三然^三存^三、^三法^三同^三於^三若^三法^三有^三、^三今^三、^三不^三是^三、^三予^三、^三
 今^三世^三上^三、^三有^三、^三今^三、^三銅^三急^三、^三不^三殘^三、^三法^三取^三、^三上^三、^三於^三、^三新^三銅^三、^三仰^三付^三、^三
 入^三用^三金^三、^三不^三是^三、^三予^三、^三富^三商^三、^三者^三、^三法^三用^三金^三、^三仰^三付^三、^三付^三、^三
 伊^三豆^三七^三嶋^三、^三と^三後^三、^三重^三、^三法^三備^三有^三、^三若^三穀^三、^三不^三及^三、^三其^三餘^三夫^三食^三
 一^三、^三法^三成^三品^三、^三只^三今^三、^三内^三、^三為^三三^三年^三、^三貯^三、^三予^三、^三法^三困^三、^三法^三、^三欣^三
 其^三余^三武^三備^三、^三仰^三付^三、^三只^三今^三、^三内^三、^三精^三、^三津^三心^三組^三、^三来^三、^三春^三、^三近^三、^三予^三、^三十^三
 分^三法^三整^三有^三、^三法^三、^三任^三、^三存^三、^三右^三、^三存^三、^三予^三、^三
國家 大元帥
法、任、撰、以、可、然、法、方、之、 仰、付、
法、任、撰、以、可、然、法、方、之、 仰、付、

万端の指揮有るより万事皆明き事あり存る平竟大
元帥無き故萬事逼にお成は軍政は届らず候ら
存る今も交る一日遅は評議のこころは子後にお成り候
一日交は損え夫丈は備届さるに到らず骨精は果
然なる

八月

松平越前守 慶永

此度浦賀表は渡来し要墨利加船も差上り書翰と和解
由渡りお申候得る遂熟覧存あり余も申度なり申上り候
由沙汰は趣な致さる右書翰も懇切に情を申上り專ら和好
を結し博く人民を愛するの詞を以て其情を貴末に上
本朝之法大法有る交易を勿論通信は候は宛る外一切
謝絶は作付し事云々貴程を免りて覬覦の念を増し助
存不例に余儀事情を心算せよ 御少届も申上り候
存存候と遠遠に國より慈く使節を執り事存
沙汰候も申上り寧ろ長考彼に難は候後余儀事情を
心算候にお成漂船接郵に候も申上り候
沙汰候にお成彼理の上書にも喜礼驕慢の意も申見
垂責の鄙意も申候至一時は策略寛容は権道と云

急事破達不亦如最扱有之内一統防禦之備
文章重本固の格之 仰付其存の
一前條通之自然粮藉の相よの旨也

皇國之武威志無二念亦拂之 仰付以之順逆曲直之理合
實正一き不敵事ハ亦如百教之雖然彼達ハ近世戦争
別火谷之倭倭整心

本朝之數百年昇平之治ハ事ハ得之尋常之守備
一國之海岸之不及中府内人戸稠密之地亦放火之志

有之近海要害之地之新地之築基備之也居之
縱令内海之侵入ハ倭禦之ハ亦南在智居之上之統警備
勅命ハ勞不ハ粮穀之運送之官ハ支那要之ハ富國

強兵之儀亦有三存右等普通之儀也中上之近也無也
御廟算之儀 立存今度ハ沙汰之趣ハ存也深思之在
存之先之定見也無也非也不思多存之然此等之

儀之誠心
御國家之法一大事也其存有愚陋心不顧録上仕之偏
法指揮之程を奉作以上

八月

細川越中守 齊護

海防奉策卷二

筑前 肥前 彦根 同 長 米澤

備前 津 出雲 土 久留米 南部 二本松

伊達 柳川

癸丑八月廿六日生

細川越中守

米穀 一本
身品 南
同 入
出 出
出 出
出 出

合衆國書籍之題得見於處商賈許容又其西
上等之版中版及至後以高打碎之外更無此二墨
後來近利害得失深慮考之商賈 御免
仍付之然亦去小害有之於取上之及至後亦
打碎之矣 御先親不少 御威光也至中以後
年近大害之引也一且之勝利有之在石了然右
得失在書記中

一條

一商賈許容長崎之出崎築立高館在建築之心得方
和蘭同和 仍付之然於南地石炭買入以後之許容
多之於日本以不用之場而アリ力大石炭之場薪水
之場仍仍 仍付之然食料也極難得之亦之浦野

おのゝお波の総て左の得を先く同國の儀を致す叶
深く厚く言存る上是近の制禁國を石及柔の先親の
外建の事一紙も有る方敷き存る然る不考の超世界の如
一 爲の事如電光急々大聖のアンゲリヤ。フランス振返る故多
く軍艦の連通商の致必定の儀を如明鏡の中心の才一ツ口
レヤ儀もお致す下我右アンゲリヤ。フランス儀を致す故
左にお成る名は 仰付遠宵のり、此の歩陣の振有る在故ラ口
止中儀を先年使節レサウトを越の島内不都令の計
そにお海法外聞も不恒者付ラロシヤ儀をアメリカ致海系
知致の上もお致す下之を良不おのるを難は 仰付の我程
合にお船の方ヲロシヤらも不お致の節、當年入津和南高
買船の事 仰付先年ヲロシヤ使節の我程の事、色々の有る事
有る事候、お如お船の事、此の儀の別儀通商

清免諸の和葉同振おのるは是又於此海アメリカ同振
レ 仰付の船且又お船のめり、ヲロシヤ。アメリカは尚又
レ 仰付の儀を為る何事も兼知の海の通商の支那和
蘭院通信の 朝鮮琉球に 和葉使節の沖返箱の通信通商の儀を裁
多し百島心去一旦和葉の儀を以て返箱の中におくもの事 先徳の由るるを以て得る
の儀候し、上は、三年の通信通商の儀は、仰付の儀、ヲロシヤ。アメリカは、不爲儀
レ 仰付の儀、 限るの事、此後ヲロシヤ。アメリカ、先年、限る、五年
六年、の事、通商の別儀 御免は 仰付の事、を以て、ヲロシ
ヤ和蘭。アメリカ ヲロシヤ帝國 和葉 王国 アメリカ 倭國 三國限る、通商の 仰付の儀、
仰付の事、の 仰付の事、の 仰付の事、の 第一、アン
ケリヤ。フランス、の 仰付の事、の 仰付の事、の 仰付の儀
不お致の事、の 仰付の事、の 仰付の事、の 仰付の儀

軍船早々差出通商 諸免之諸徳之遊拂下事之為
神妙方々 俾復之 三月是日 是別以異國征夷國
皇國之兵不換上果之西府之旁以五國之通商 即免之即其存
以公去通商 即免小害者之しを 爲國之 然也 倭亦
以中々之通 以夷征夷之 害も除
皇國可爲安全也存る

但アメリカカ。ラロシヤ倭之異國中 言を尤信義有るアニケリ
ア。ラフランス如き 表裏之 倭亦之 然也 与國は日本諸國
若くは 平日無之の 言を和順之 來 茲後後年 互外國
之 事 起るに 爲 然 故 亦 加 勢 之 故 倭 亦 遠 矣 日本之
至 小國 之 均 是 方 今 二ヶ國 通商 本 増 之 諸 事 決 然
交し 事 之 諸 事 融 通 亦 益 也 言 之 以 推 列 二ヶ國 對
増 事 之 交 之 以 推 列 二ヶ國 對 洲 對
之 俾 休 ヲ ロシヤ フランス アンゲリヤ 初 然 之 事 亦 往 後 計
下 之 上 軍 艦 引 連 然 若 國 有 之 早 之 軍 艦 若 如 遊
拂 之 之 致 之 爲 然 亦 美 里 之 春 也 之 得 之 抑 西 之 安 心 之
亦 之 之 相 又 南 地 一ヶ所 相 傍 亦 然 之 事 亦 無 人 鴻
相 傍 之 俾 休 之 故 同 爲 之 倭 之 日本 之 同 之 之 俾 休 之 能 復 和
以 俾 休 之 各 斗 日本 之 俾 休 之 者 用 之 俾 休 之 物 也 同 亦 實 之
近 年 同 鴻 之 下 美 里 人 致 任 任 之 事 存 之 石 炭 運 中
之 不足 之 名 中 亦 之 先 之 琉 球 之 也 之 事 亦 美 里 人 之
及 此 之 事 也 之 物 之 之 無 人 之 近 年 頻 之 石 炭 運 中
其 之 五 場 致 之 之 明 公 俾 休 之 表 向 相 傍 致 之 倭 之
推 察 之 尤 石 炭 之 日本 之 運 之 入 用 之 也 之 有 之 之 有 之 許 實

但アメリカカ。ラロシヤ倭之異國中 言を尤信義有るアニケリ
ア。ラフランス如き 表裏之 倭亦之 然也 与國は日本諸國
若くは 平日無之の 言を和順之 來 茲後後年 互外國
之 事 起るに 爲 然 故 亦 加 勢 之 故 倭 亦 遠 矣 日本之
至 小國 之 均 是 方 今 二ヶ國 通商 本 増 之 諸 事 決 然
交し 事 之 諸 事 融 通 亦 益 也 言 之 以 推 列 二ヶ國 對
増 事 之 交 之 以 推 列 二ヶ國 對 洲 對
之 俾 休 ヲ ロシヤ フランス アンゲリヤ 初 然 之 事 亦 往 後 計
下 之 上 軍 艦 引 連 然 若 國 有 之 早 之 軍 艦 若 如 遊
拂 之 之 致 之 爲 然 亦 美 里 之 春 也 之 得 之 抑 西 之 安 心 之
亦 之 之 相 又 南 地 一ヶ所 相 傍 亦 然 之 事 亦 無 人 鴻
相 傍 之 俾 休 之 故 同 爲 之 倭 之 日本 之 同 之 之 俾 休 之 能 復 和
以 俾 休 之 各 斗 日本 之 俾 休 之 者 用 之 俾 休 之 物 也 同 亦 實 之
近 年 同 鴻 之 下 美 里 人 致 任 任 之 事 存 之 石 炭 運 中
之 不足 之 名 中 亦 之 先 之 琉 球 之 也 之 事 亦 美 里 人 之
及 此 之 事 也 之 物 之 之 無 人 之 近 年 頻 之 石 炭 運 中
其 之 五 場 致 之 之 明 公 俾 休 之 表 向 相 傍 致 之 倭 之
推 察 之 尤 石 炭 之 日本 之 運 之 入 用 之 也 之 有 之 之 有 之 許 實

無一倭兵存

二ヶ条

一、アメリカ諸島一切を併呑すべし、
是を以て、
防人敗北は、
和打碑、
予らるる大勢死、
彼も敗軍、
兵士敗軍、
冠を被り、
ては、
アメリカ倭を日本に海陸両方より通船如星者、
船皆、
江戸大都會一口も立行、
座の、
宮を、
皇國、

但、
中、
猶、
免、
成、
宗、
儀、

洋儀に揚も不致りては格別之頃時世世界之形態
皇國後身之儀亦得之頃時世有之なり 然得法時若且大運
之今然之候も存るなり 昔中興後中興臨以日本武備
仕度等も存るなり 此後之頃時世存るなり 先南時
以試之なり 一俣之頃時世存るなり 今年人氣溢増 塞仕
表向文武有輕蔑之流榮あり 昔古儀儀東古盛衰之節遇
大風之儀も有り 運も無し 惟表地及礼始之時 儀も考
て之なり 後一切軍艦亦存るなり 幸亦無事之儀も
情世之存るなり 幸亦無事之儀も考 存るなり 存るなり
中興後身之儀も存るなり 存るなり 存るなり 存るなり

皇國善令 良策無比 上の美事 一有るは存る 既フランスの
偽帝ハナルテ 世界保登 志有る フロシヤ之攻入ハ
寒氣酷烈 有るハ 干戈之持ハ 絶えん 竟亦收軍ハ
末之和蘭 今戦仕ハ 幸亦無事 存るハ 存るハ 存るハ
フロシヤハ 存るハ 奥相ハ 攻入ハ 存るハ 存るハ
之儀之及 幸亦無事 存るハ 日本大幸 儀も考 此
之儀も考 存るハ 存るハ 人物亦 存るハ
疑ハ 存るハ 軍艦一 存るハ 御免ハ 存るハ
フロシヤ 盛大之儀 存るハ 幸亦無事 ハ 上ル帝 下候ハ 姿ハ 出立 歐羅巴
巡見 軍艦大也 制他 自ら見 存るハ 存るハ 存るハ 存るハ
右ハ 存るハ 存るハ 存るハ 存るハ 存るハ 存るハ 存るハ

世界ヲ嚮く世大程ヲ我々倭ノ所ニ在る者右ノ事也又地軍艦
歩ノ威人カ南人又ノアメリカ人 倭ノ教人ノ為事也其ノ製造
ノ物日本倭ノ事也其ノ習日本人ノ事也其ノ仕公倭ノ事也
右ノ事人ノ事也其ノ先例も有る

二代大將軍ノ御時濱ノ越々馬御日 仍其ノ事も有る

又ロソノ國ハ西書ニ在る倭者 ロソノハイラスニヤノ同ノ事也 同日ノ論也其ノ如
御書ニ在るアリカ通高也 即免ノ事彼也其ノ心記也不及也

其ノ高時ノ人裡古ノ倭其ノ不妻也年ノ事目先ノ倭

其ノ已涉先例也 其ノ心也 倭也 其ノ非也 其ノ事也

其ノ俗ノ事也 小田原洋定也 其ノ倭也 其ノ事也

一 兵器凶器戦志道徳也 其ノ事也 其ノ倭也

皇國我國ノ事也 其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也

其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也

其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也

其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也

其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也

其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也

其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也

其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也

其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也

其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也

其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也

其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也

其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也

其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也

其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也 其ノ事也 其ノ倭也

以乃大草并亦如石我定天寸致骨以位亦如居必
異船大船之速居勇氣足為方先乞之兵家之忌嫌多
日本兵之又好之云云矣船之者之能俄病之矢至留毒
ホトコ一段多乃之皆務研之亦如之如此以都令以外
御膝元之備石宜候以石人先年和蘭本國船中上取
時多一人同團之 作軍船大炮亦以用意亦如居者以
宜早由全備之亦如居者一發者之取之少居之如葉中上取
事實之御為節中上取之亦如之且是昨午和蘭風帆者
以同進者之者石之無忌路之趣中上取之何多亦備之
意之是道亦如之矣取石之亦如之候之候之亦如之
然亦用意之如此亦如之候之亦如之矣外國之也 譯無比
上取之也亦如之候之亦如之矣候之亦如之矣候之亦如之矣
將來之亦如之候之亦如之矣候之亦如之矣候之亦如之矣
在石以候之亦如之候之亦如之矣候之亦如之矣候之亦如之矣
心中候之亦如之候之亦如之矣候之亦如之矣候之亦如之矣

東照神君 御明鑑可有之長恐惶謹言

七月十七日

松平美濃守 齊溥

上取之也亦如之候之亦如之矣候之亦如之矣候之亦如之矣
將來之亦如之候之亦如之矣候之亦如之矣候之亦如之矣
在石以候之亦如之候之亦如之矣候之亦如之矣候之亦如之矣
心中候之亦如之候之亦如之矣候之亦如之矣候之亦如之矣

1845
日本水産考

今度浦賀表の飯島、亞墨利加船、差出の書翰和解二冊
被る通商の儀、是迄の仕来り有り、
否と容易事と書、
之趣意得て、熟究仕體、利害得失、後其の趣、是も厚思
意を是、任令忌諱、獨りより、毫も不苦、心腹之、不殊見
込、和十分の中上、後書付、之趣、強有、其趣、見、以、右、其趣、存、
次、其、中、上、の、

一 亞墨利加船、
實、國家、
外、患、方、
所、時、業、
之、涉、仕、事、

第一 涉洋客を以て其れ彼魯西亞諸厄利亞佛郎察
等之徒或忽之海客の事一程之者其後之必然之由度無量
利加計之涉洋客者之非之困之由涉洋客者之非之困之由
由是耳之由客者之非之困之由涉洋客者之非之困之由
之由我者有用之京夜交易色なるは法之由成也難也
由事致者其難也上就交易之由客者之非之困之由
之由客者之非之困之由大客致引也之由客者之非之困之由
且又蒸氣船往來之便を得人の爲に南境之港口停泊
の由之由客者之非之困之由即^{半波}波大之由客者之非之困之由
然其亦改之由客者之非之困之由且稱鯨漁船
難波之由客者之非之困之由却るは其の事抑去るは客者
之由客者之非之困之由

征夷大將軍之御職任被為在は涉俄之由得之征夷

之二字實之萬世不易之御眼目之由客者之非之困之由

神州之為形大海中屹立一島古獨立敢而夷狄之為不被犯事之由

而武威海外之輝きは其の由客者之非之困之由今日昇平之委士氣不也振夷狄其其響を窺ひ程之由客者之非之困之由一獨獵倨傲之振舞之事

而國體之致關係難容之由客者之非之困之由斷然少打拂之由客者之非之困之由士氣を以一振中東國者之由客者之非之困之由御挽回之由

國家磐石之基礎以固被遊改儀之由客者之非之困之由

右愚存如斯 西彦公上

八月

松平肥前守

奇正

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

此度亞墨利加各衆國之國書哉呈之存表書和解熟覽

之上市備向内海之商禦又之重之渡事之商法所至亦不

憚忘律存考之上市存表 作出之畏之實以國家之大計

淺見愚昧之也入之見聊 存表之俄存之上市

一表書之趣金銀寶貨之利息之石炭之鐵之物を求め又

之交易之旧律之變之新法試用之勸之港口之借更亦

將又兵船自負之之忍嚇之姿之征蛮夷之常態之存

中實之可憐之至之存

皇國之古今之習俗義勇節烈之士吏之職分心得金銀

財貨之高賈之業といや之先富者之不義風俗萬國之傑

出也之新之蛮夷之日夜損益利害之常儀之致國王

之璽印之押之他疆之贈之書中之交易之利之公然

と稱し揚柳以孤辱と名存習俗と格別と兎角寄付
るに始終事論多く且第一と為防天主の邦教以安洋
の法は正為立立と神謀遠慮萬世利潤と為も不
変の儀と奉為察と邦の防禦と儀種と亦存の儀元
来戰場実地と憂も覺席上櫻と兵戦と腐徳と
飾り事却と士吏と推瑾不堪慙辱存存存一難
中上何分第婦太平空費と虚飾と実備と在成
格守布と吏存防禦如何格見事と為行届と海内
瘡勞之内と怨嗟と者亦存多と内憂と生一以事必然
理と及上と二百年来膏澤と浴一海内浩恩と感戴
仕と事勿端と正先貴賤と平生と生長一安樂と我と
也南前固有と後心得と事一不賤と常人情と不
所と以天今般格別と為純徳政と士氣と振起一上下
一同恩儀感激一忠憤と志氣と發一以格法仕並肝
要と存存

一 夷書中石炭極無按交求の先吾

皇國も火輪船の便利を知製造を取掛出石炭は必
用と他邦と求と應一難一時と權道と以亦返答有
るに互存存其外港口と開と交易と始以儀と文化
度北狄、馴薩腦佛、市曉喻謝絶也 作渡呂儀
合も了多と我万里吳俗彼我争論と生一易と儀終
法曉解也 作渡及漂着難民と儀と近年松前
西接恤亦送と亦事者と我と最と以乃尤彼も可
知事と存存存存存見込和漢と時勢と寫と如考

以得也

皇國海中獨立一外國、氣以吞龍城、退縮、海三相
成、多、往、了、憂、揚、事、了、了、海外、勇氣、を、振、い、蛮、夷
危、疑、之、懼、を、抱、き、以、此、所、至、一、者、之、存、存、何、卒、以、為、遠、西、洋
倭、寇、也、希、後、以、上

八月十日

井伊掃部頭

直弼

夷賊相房海に渡来廻船を妨はる西國中國に廻船
荷物之駱州沼津に上陸致豆州三島より甲府道山
中近吏より四里計八間道を経て我郡より甲府と海道
蒲小原小佛の邊より出日野近吏より玉川筋を川下
世田谷の陸上より江戸の運送致り大凡四十里餘りお
成り我駄馬程より倭随分出来り此におり

但此山中の思原小沼の向道を經る江戸甲府
の海道下谷の出の方面道近く總立都合も
宜我里數の所分明に書し

御答書

井伊掃部頭

寛永十二年以前長崎堺京都等

御朱印船九艘有之処

大猷院様沙代那獲沙制禁付右之九艘船海法停止閉
洋領國之沙法は為 立並通商之支那和蘭之限其餘之
一切諸免許等之然ニ為今之勢を以馬自右考は近年外
寇之萌芽を察し頻々患國之英雄憤士先識識海防之
方々も今時々急變を臨むる也

而古代之如く前奈閑洋之沙法を已に押立天下靜謐
皇國安寧之由所至者之尤石は存充海防之全備年
月之石鍾之は難行局印慶長十四年五百石以上之
兵船廢毀以來

皇國沿海大砲ヲ以外寇之可敵對之軍艦等々唯今

八丈島大嶋を非獨り、此は三城、此は高取の時を傳
難多なるに兵艦多く、此は追討御計、何れも各心得
多し、此は羅城の橋を、此は居る、此はみ、此はおの始終を難保又
川を隔て戦ひ、此は河川を渡り、此は打て、此は城の方勝利を、此は治る、此は傳
義、此は行く者、此は進、此は可、此は勢あり、此は待者、此は退、此は結、此は安、此は古今
の勢、此は必然、此はに見、此はる

祖宗閉洋、此は法、此はは、此は支那和、此は業、此は橋、此はは、此は残、此はは、此は是
は、此は今、此は此、此は橋、此はを、此は幸、此はと、此は外、此は國、此はは、此は法、此は可、此は至、此は可、此は有、此はる、此は事、此は將、此は兵、此は端、此はを、此は不
開、此は年、此は月、此はを、此は經、此はて、此は必、此は勝、此は萬、此は全、此はを、此は得、此はる、此は御、此は計、此はの、此は出、此は言、此はは、此は此、此は度
亞、此は墨、此は利、此は加、此は不、此は量、此はる、此は石、此は炭、此はも、此は九、此は州、此はも、此は多、此はく、此は出、此は由、此は及、此は兼、此はち、此はの、此は苗
方、此はも、此は必、此は用、此は云、此はく、此は控、此は道、此はを、此は以、此はて、此は先、此はち、此は上、此はは、此は治、此はる、此は是、此は等

後、此は彼、此は洋、此は中、此は臨、此は時、此は急、此は用、此は時、此はは、此は長、此は崎、此はに、此は事、此はは、此は此、此は有、此は條、此はあり、此はは、此は是、此は新、此は水、此はの、此は惜、此はむ、此は不、此は可、此はは、此は合、此は船、此はの、此は國、此はの、此は豊、此は凶、此はあり、此はと、此はは、此は漂

流難民、此は近年、此は控、此は育、此は送、此は送、此はは、此は奴、此は今、此は更、此は不、此は及、此は詮、此は後、此はは、此は萬、此は可
蘭人、此はは、此は以下、此は出、此は扱、此は又、此は交、此は易、此はの、此は後、此はは、此は國、此は禁、此はる、此はは、此は特、此は世、此は古、此は今
の、此は差、此は別、此はあり、此は有、此は無、此はお、此は通、此はは、此は天、此は地、此はの、此は道、此は也

祖宗、此はは、此は神、此は告、此はて、此は以、此は来、此は此、此は方、此はより、此は高、此は船、此はを、此は和、此は蘭、此は會、此は所、此は咬、此は啣
吧、此はは、此は高、此は船、此はの、此は多、此はし、此は交、此は易、此はの、此は品、此は是、此はは、此は亞、此は墨、此は利、此は加
是、此はと、此は魯、此は西、此は亞、此はと、此は分、此は賣、此はは、此は蘭、此は人、此はに、此は任、此はて、此は互、此はち、此はや、此はは、此は心、此は航、此は海
大、此は艦、此はを、此は新、此は造、此はは、此はれ、此はは、此は今、此は一、此は五、此は年、此はを、此は經、此はへ、此は大、此は新、此は業、此は人、此は同、此は往、此はる
は、此は西、此は扱、此はあり、此はて、此は後、此は彼、此はら、此は不、此は意、此は出、此は是、此は扱、此は寛、此は永、此は以、此は上、此はる

治、此は朱、此は印、此は船、此はを、此は復、此は古、此はは、此は先、此は大、此は坂、此は兵、此は庫、此は坂、此は等、此はは、此は高、此は高、此はは、此は命、此は其
株、此はを、此は与、此はへ、此は賢、此は實、此はの、此は大、此は軍、此は艦、此は初、此は蒸、此は氣、此は船、此はを、此は新、此は造、此はへ、此は日、此は本、此は無、此は用
る、此は品、此はを、此は積、此は込、此は水、此は主、此は船、此は既、此はを、此は暫、此はく、此は業、此は人、此はを、此は雇、此はひ、此は剛、此は出、此はへ、此はて、此は志、此はり、此はも

心利多る者尤を意に交へ大砲之兵利大船之取廻一針路
之法を學びて表に高船を立内實を専ら海軍に調練を心
得近き船數を増る習熟し日本人自在大洋を意に其間
人の密訴を不待し之彼地之密訴を實見し他日海軍
に全備をか一立又是近思赫斯國之憂を看破し奢倭空
費之弊風を更改し武備炭重内を十分おとの之勇威
を海外に振ふ振おめりて東に居るくみをお成内外充實
却る

皇國安躰之有る哉と存存此方先して仕掛是より
時宜より何時とも御制禁之成は半事實永度

之如く免角彼を寄せ付さる処良策と存存物又妖教
之如何振るも嚴密に仕向も有るに亞墨利加亞魯
刺も航海し術を近年習熟致し由者

皇國之人性伶俐敏疾今も習練致さし西洋人者
可も困躰時勢を量永世

皇國之番夷之憂を海内靜謐法守護に遊りたる
祖宗之法法仁華増存亦存先却る

神意之存存叶はるる存存心存存法而専ら海内
信義を以てせらるる存存肝要と存存均第一

天朝之遣伊勢石清水鹿嶋之
勅使日光山之台使を以て海内靜謐國家安全

之法裁改し者之を告免角
神意之存存但し存存

神國之旧典且人心を以て一致ありて存存法計を

与在存今 法府内近海 法軍砲之依是 不意
急変之市移 覚悟容易 而之 吾所産之 兵時也 難
扱是 多之 幾重之 鉄壁之 築之 兵 吳愛之 情之 必人 和
不在及 兎之 角一 同 亦 法之 在 裁 改 あり 史之 号 令之 示
更即 今之 法 免 勢 不 仰 亦 亦 右之 越 法 制 禁 禁 法
以 見 込 存 奉 恐 入 法 光 無 遺 策 十 多 如 中 上 存 兵
仰 出 存 中 上 存 兵

八月廿九日 井伊掃部頭

亞墨利加船 差 出 書 籍 之 趣 有 氣 付 筋 中 出 存 兵
之 分 承 知 仕 考 籍 熟 使 仕 之 交 廣 之 形 之 儀 有 之 法 光
編 之 交 之 日 本 對 一 和 親 交 易 欲 求 自 然 不 在 假 節 之
軍 艦 之 兵 向 需 意 之 之 進 不 在 亦 亦 見 實 之 不 容 易 之 存
何 卒 所 國 威 之 不 振 振 之 良 策 八 有 之 官 委 之 之 種 之 兵
考 仕 之 之 大 格 別 之 附 之 亦 亦 無 之 一 先 形 之 通 高 之 免
以 之 之 他 之 諸 事 之 也 回 信 之 形 之 日 本 之 困 力 通 高 之 為
亦 表 之 格 候 之 中 亦 既 之 官 近 之 於 清 國 之 通 高 之 事
起 戰 争 之 及 び 人 民 塗 炭 之 苦 之 後 亦 亦 於 宗 明 末 年 之
先 蹤 之 有 之 事 之 得 之 也 此 後 和 親 交 易 之 儀 之 恐
亦 亦 亦 之 在 也 且 日 本 之 弘 安 夜 之 外 亦 亦 對 一
武 威 之 示 一 國 勢 益 強 昌 之 成 候 也 有 之 亦 亦 之 形

夷滅大之心膽を打挫き公祖も望く事既に仰せ附書に
涉り尚ほ為事に 仰せ後年外夷に親諭を絶し後
仰せ方却る事今も西策先には有る方致致と存存に是
号に倭之疾涉評強之方も言はれ立程諸家氣付に内
格別智勇の良策も有る私忒愚業に趣及も云云府公
得たに 仰せ之方難懸止と存不顧拙陋存付に大意申
上言以上

松平大膳大夫

慶親

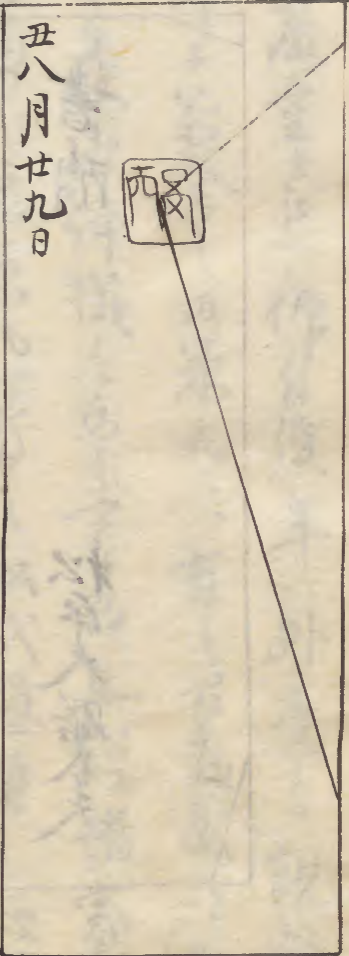
私末家毛利左京亮毛利澄政と御後書にも書翰和解を
見存候に趣示候候に又孰も同意と外に存付に不無に候
私近中出候存者務に別後以答書差出下り以方は後
聞至言候事以上

八月

松平大膳大夫

書附

松平大膳大夫



丑八月廿九日

八月

八月廿九日

合衆國の呈上する書翰は活字版の儀を國家の法に大勢
有るに當り存案致有るに中上右様は 作派の趣旨畏れ下
恐る存案に上云

一 外國通商の儀は支那和華の外前より西洋各國に既先
年昂羅斯の和意より叶々由來の次第に西洋諸國は
發隨石炭食物是又因和意存案能然其時防禦の儀向
は在り下云の如く米中各々存案に何れは其戰年不至
は除儀の如く成意其内は通文吏の如く組立は其後
存案致

一 漂流人の捕郵の一条は彼より中上右様尤も儀存案致す
取扱は其の如く難者に候故に存案致

右淺見より上云の如く存案致す 此尋歎止むるに却る

不布衣之儀之有弊一上旨恐惶謹言

八月

上杉彈正大弼 齊憲

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

此度小亞墨利加合衆國伯理璽天德より水師提督ヘルリ
を軍艦の大將として浦賀表に渡来致し天徳の書翰を
奉呈に在り所を以て俄に列在府の面より不存の聞に及且又
在國の私書近不存の上宿法甚くは事多き事畏れ別為箱
熟覽仕て交私に不存の事易に良策を以て宿法宿法
に通す夜に俄に國家の志一大事に以て宿法故馬と相考且家先
重役の者近及内徒愚按在通書上り

一 漂流民扶助の儀致上事近年拂郎西國海兵の司某
長崎奉行の書上を以て傳承し居りて又中夜致出の事
引合お考らるる諸番表に通し以取向卑怯暴虎の事
上の器の事多し事多し日本より蠻夷地方に漂流仕る節も
いつ方にも大抵手厚に扱ひ以て承及居りて此後上

通西學屬、おののみならず、小町、寧小、松、杉、被、作、出、我
人共納得仕存、有、此、度、改、儀、と、存、存、存、

一 和親交易石炭食料、事、支、那、和、華、の、外、に

通商、事、形、出、る、も、米、の、と、り、の、差、留、の、お、め、の、國、に、多、く、有、

此、度、の、此、度、合、衆、國、に、限、り、御免、は、仰、出、筋、に、各、以、府、民、

皆、存、在、り、然、天、德、を、申、送、の、和、親、交、易、石、炭、食、料、也、

事、元、西、國、の、利、益、時、勢、に、應、じ、以、法、を、改、革、し、お、め、の、也、も、聖、賢、

之、教、に、お、背、の、儀、も、多、く、以、得、た、日、本、と、小、國、に、此、度、の、加、交、易、之、來、

船、進、の、數、多、く、お、め、の、事、を、御、衰、弊、之、基、と、お、め、の、事、故、古、來、支、

那、和、蘭、の、外、に、御、衰、弊、之、成、來、の、以、法、を、存、在、の、以、法、を、先、に、改、革、

お、め、の、事、を、却、る、衰、弊、を、引、起、し、長、久、の、謀、に、お、め、の、事、也、然、可、然、

後、の、存、在、の、儀、不、然、に、天、德、に、應、じ、以、法、を、改、革、し、以、

諸、蛮、夷、の、侵、侮、を、招、き、お、め、の、事、を、お、め、の、事、也、然、可、然、此、度、徒、

御、國、法、を、以、仰、立、の、以、法、を、お、め、の、事、を、折、角、天、德、を、時、勢、

利、害、具、に、申、送、り、及、古、之、故、に、以、法、を、以、法、を、お、め、の、事、也、

大、意、を、事、務、に、起、し、一、尤、之、思、を、親、切、に、來、臨、厚、く、得、た、交、易、

利、易、に、予、大、國、の、風、を、お、遠、者、の、事、を、我、日、本、八、國、陋、也、之、

人、一、居、り、何、一、不、足、の、事、も、無、く、又、小、國、に、有、余、の、物、産、

も、無、く、米、穀、拓、く、沃、土、生、じ、以、得、た、水、旱、の、凶、年、も、有、り、及、

三、年、に、儲、蓄、を、以、手、為、と、致、し、以、法、を、米、穀、と、り、餘、計、に、無、

以、上、珠、玉、金、銀、織、物、之、類、を、交、易、し、法、を、交、易、し、一、庶、民、

奢、侈、の、種、を、お、め、の、況、僻、陋、の、國、を、以、は、珠、玉、類、を、重、寶、に、

致、し、不、來、の、兎、角、廉、耻、禮、讓、を、以、く、教、を、以、く、横、逆、貪、

慾、を、起、し、風、習、を、古、を、守、り、致、好、し、と、し、る、政、を、以、今、交、易、を

改めんとし和親をとりみ争端を啓く事似つせ在貴
 國他邦に政教を妨ぐれば禁し多事なり正大の風をれに
 方々此間分多あり又五年十年利不利を試
 みる上より此の約定を以て致す然るに論し重く厚く致
 得た先手あり國に交易改め得る彼等と對し以て茂
 貴様改めし且又支那社事と海路石炭食料と此の聖
 至熱雖も堪事と存厚は是又交易の准し以故不得已及改め
 以て津返簡を賜り別かへりり是路事船の儀と以て一船
 響愈致度いれ入津り望き國禁加答意料と志ししと
 由る米牛諸品に南より五天徳にも出るるに答給としし
 相應の品と法給はは漂流人の儀を前条に廻承知致され
 左余一切改めし事皆のしと天徳の統成是路津返簡の
 くへりりはは仰流の外と有る言致され事存る尤へりり
 書面を別り不遜く文字異心を抱き我を要し以姿も我
 以て之物物に扶助致し筋多し別り改め有る改め有る
 存るは沿海に防禦未十分を整りしと存る言致され事
 下先事候は備半年まもも是々年まももお延に程法は
 今いりりしと正面上に親切に扶助致し以て改め筋多
 取上り無しはは津懐恤の思ふに右は改め筋多承る廻
 吏に改め存る言致され事上りは渠非道を以て是妻に及し
 以て我を禮讓を以て渠に横逆を以て轄りの筋多お給り得る
 其時及び勇と我津博拂り後石お振存中も存る言致
 其時及び勇と一方に防禦忠勇を擡ぐお励ましに諸事任
 以て是事沙儀は一助もお給りし可為お懐に別後お存る言

無所不憚忘諱書上之版恐懼之至也存公謹言

嘉永六年八月十日

松平内藏頭書

慶政

阿部伊勢守殿

牧野佑前守殿

松平和泉守殿

松平伊賀守殿

久世大和守殿

添書

副啓

本文之趣を尚歎之理有り而存公の愚考之趣心底之石残
書上甲の作保被圖より於公の条之内澤氏之儀を本
書より上申す通し、此中其条の以後患に不致公儀ハ際時西
權邊より西取計も一方の存事ニ付此後公都令以才之儀ハ
存公の文沿海の勢を制向之儀是迄も存重之儀ハ承及
存公の得先向後於更申す存之儀守儀也 仰出輒内海下系

込不中後防方之由工夫三有西庄後之在存大之素
より御兼知之事と在存防之在存大之素
以上

八月十日

松平内藏頭

合衆國建籍和解武丹末家池田中務少輔
私存家之越致承知後方示後以在別紙書上之
別存之事も毎に廻因意之由中の就指回人
以上得た寂早別版書上六不仕方中
中版中以上

八月十日

松平内藏頭

今般兵船渡身在諸家素意を

上達及在り多し炭命を蒙り不肖之身を不顧

上聞も及合條た通西庄名

本國武威強大成事各國之知る事西庄名得た流石不
三百年身昇平之徳化少路一古昔之比一
何方が武威名聞一掃之隔一
南の屋くとも覚不中士風不振の
日を送くおのつこ心無なるも心不
在る事とく少く世活有るも時節と
氣中及難く又お慮者も
一と在り入心恐種
六系之難くと存あり古身
定律
信志
交易

少時之始上彼より事成成りて有命人教又ハ飛練
之者之權指差向自又平生之氣合と遠び折獨々々
能者果も言者も存兵之機合とハ言格言之由所取
何也也征夷之二字を眼目と
思召不整不拍治身陣中と云為言思召も子高藤成
駕御專要之由所取以後後身も節也拍成志氣也
法取上等之書管をも以得た不也方上策と存存實
夷情難平也加陶益之拍心持也油取也加也官定
律也的南段一武威之心國風也示一也拍存存也

丑
十月

藤堂和泉守 高猷

此度以波お成り吳國入書籍和解熟覽仕存念忘律
下上存存畏我形之形不容易後存存就之平穩僅
畏仕以拍法理解有之也上も承引不仕以節之時可也
以步拂之方も有也所存安也評儀存存存也此能
上者以上

八月廿九日

松平出羽守 定安

此度浦賀表に米利幹の兵艦を差向右大統領の書
翰奉呈向後石炭食物等の交易お祈り致す右大答が承
再渡来仕るに在りて拒絶お來りし時交易の兵艦を同
下形勢の如何に存否西岸に候令忌憚り福の儀に
中上は候旨の儀に西洋の人情をお察し候大艦大砲の
製造逐日精進の如き狂風激浪をも不懼大洋中を
如阻途往來仕るに在りて東方の方面に竊據仕るに
何分兵威を示し
要し交易を圖に遊々仁愛の意を盡す者之儀を
亦れ日本國を存するに候に在りて所に在り候に
英吉利との戦争今より段々一考し以て交易の儀を
一切拒絶の如し海防の儀に在りて是れ
亦れ交易の儀を一度米利幹の西名明の如し
英吉利の如し

此度浦賀表に米利幹の兵艦を差向右大統領の書
翰奉呈向後石炭食物等の交易お祈り致す右大答が承
再渡来仕るに在りて拒絶お來りし時交易の兵艦を同
下形勢の如何に存否西岸に候令忌憚り福の儀に
中上は候旨の儀に西洋の人情をお察し候大艦大砲の
製造逐日精進の如き狂風激浪をも不懼大洋中を
如阻途往來仕るに在りて東方の方面に竊據仕るに
何分兵威を示し
要し交易を圖に遊々仁愛の意を盡す者之儀を
亦れ日本國を存するに候に在りて所に在り候に
英吉利との戦争今より段々一考し以て交易の儀を
一切拒絶の如し海防の儀に在りて是れ
亦れ交易の儀を一度米利幹の西名明の如し
英吉利の如し

去月朔日於

管中陸奥守に

事達之極且和解武冊西渡之如終之存分之亦も以て伍令
忌憚之觸多も不苦も御心慮之不猶下智之了り上る也
作出甘果名別紙之心中上る

八月廿五日

有馬
中務大輔
慶頼

今般浦聖表アメリ力合衆國王より願書之出如委

天下之法一大事也お抱に存於新書之使節之書籍

此中々在成爲存アメリ上る也 仰出奉申長後信於書馬に
指見付の交文面之至る平報之指以の兵力之是非

二彩亦自中存意之物達無常之人情徳甚悪之入事後

身存之全新唐蘭船之外異國之取を

神洲遙海に近付無事也 御制夜之祖宗英明之法

志之悪之 數百年之 後也 四回信付合衆國之取

内許容之石之然 身存之

神州外交を絶以事ハ洋外之弟夷も克知之也以は

此等之至一使之書籍之俄之弟世之邦典を廢之也此也

乍恐

國體を損せし也

神州之大恥辱ニお妙に治之和親通商之事之思意

決之御多爲之 此奉 存之 君思意之趣 新書内許容之

西陲岩岨拒之、おめは、彼等必兵力を以て争ふ、至
は、勿論、事、得、備、今、之、時、勢、防、御、之、儀、一、急、成
之、方、内、府、有、事、存、心、御、之、也

神州、元、來、海、國、之、航、海、之、術、之、洋、夷、之、長、技、之、爲、之、一旦、兵
船、之、亂、其、以、之、四、邊、賊、衝、之、お、め、何、時、何、方、侵、之、事、も、難
計、之、を、以、て、浦、賀、之、勿、論、津、之、浦、之、近、防、禦、之、儀、周、密、之、
届、長、之、方、一、大、小、名、之、向、之、國、用、石、足、無、以、産、士、氣、振、立、
以、給、津、所、之、名、西、陲、岩、岨、之、存、心、甚、思、多、事、存、心、之、丑
年、以、來

公、意、は、賢、者、之、西、越、意、進、之、お、め、之、を、於、此、上、國、之、主、府
初、決、然、之、公、勢、重、之、舊、典、之、も、諸、葛、之、費用、お、省、之、

況、後、西、國、之、也、以、件、之、内、人、中、國、家、治、要、安、爲、時、勢、御、之、儀、
涉、英、略、之、以、格、非、道、之、西、評、議、之、府、之、國、力、強、威、之、お、め、之、道

西、評、議、之、府、之、時、勢、之、存、心、右、格、外、之、西、評、議、之、府、之、諸、葛、
以、恩、澤、之、多、之、務、之、節、儉、お、立、食、之、貯、兵、之、練、軍、之、融、通、也、身、之、
防、禦、之、糾、連、之、お、め、之、又、右、之、通、重、之、舊、典、之、も、畢竟、防、禦、
之、爲、之、格、別、之、西、評、議、之、府、之、大、小、名、之、勿、論、土、民、之、勢、之、難、有、
御、趣、之、も、承、知、如、何、才、感、徵、仕、人、之、腐、懲、之、志、之、勵、之、言、之、
得、之、士、氣、自、然、之、振、之、起、之、攻、戰、之、糾、一、入、勇、矣、之、有、之、存、心、
存、心、之、上、之、洋、夷、之、難、出、裁、之、西、越、之、お、め、之、也、後、患、之、也、然
念、者、西、陲、岩、岨、之、存、心、保、明、年、春、季、渡、東、之、節、之、儀、令
權、送、之、西、沙、汰、之、お、め、之、も、浦、賀、停、泊、之、儀、以、不、成、丈、之、禁、
お、成長、崎、表、之、も、お、め、之、也、西、沙、汰、之、存、心、及、此、儀、之、國、評、之、
維持、之、儀、之、一、端、之、也、又、西、府、内、之、西、便、利、之、も、お、め、之、也、

竊、急案仕、當時、勢二百年、其、昇平、お慣、き奢、後
日、増長、一、武、征、兵力、年々、小、お、衰、い、き、天、下、一、統、く、凡、留、尔
西、府、の、始、く、央、浦、賀、長、崎、を、終、る、も、異、國、船、後、身、の、毎、
清、持、く、大、小、各、を、句、備、せ、外、大、其、時、に、費用、を、不足、を、外
之、海、岸、お、抱、い、國、を、洋、中、に、帆、影、お、見、く、て、も、お、應、く、人
數、も、出、法、仕、ら、る、也、是、以、費用、多、う、く、右、指、く、都、合、に、之、
年、月、お、重、く、お、過、じ、上、下、困、窮、に、至、り、一、吳、城、の、石、櫓、を、際、
侵、襲、お、し、事、の、在、ら、ず、防、禦、に、難、儀、甚、以、毎、覺、未、お、存、ら、
官、兵、糧、を、お、關、き、い、り、一、年、を、も、難、死、方、防、禦、を、お、存、ら、
堅、固、に、お、立、ら、送、り、ら、る、右、に、子、情、を、お、養、年、お、立、ら、
命、を、お、守、り、い、り、卷、械、甲、由、月、に、輕、近、の、急、來、に、お、具、に、ら、
甚、痛、く、費用、を、余、り、に、お、改、倉、算、數、に、改、め、ら、る、に、難、
成、落、入、い、や、を、四、民、之、の、お、延、生、原、淺、く、お、い、き、愚、昧、く、出、民
拓、く、自、然、上、を、恨、生、く、種、く、夷、賊、に、被、誘、に、從、ひ、い、者、三、者、も、
中、外、之、を、當、時、に、權、臣、に、お、示、す、先、に、自、計、吃、度、不、お、定
い、る、也、言、徳、に、お、延、更、に、此、言、し、一、舉、を、國、家、に、お、一、大、事
ら、お、存、ら、官、心、腹、を、不、殘、恐、多、く、も、不、憚、り、上、に、充、防、禦、に、術
堡、障、に、布、置、械、に、製、作、を、事、ハ、外、に、人、三、者、に、存、ら、奉
存、ら、有、馬、慶、頼、恐、惶、再、拜

八月

阿部伊勢守殿
牧野伯耆守殿
松平和泉守殿
松平伊賀守殿
久世大和守殿

今夜浦賀表の渡り、亞墨利加船の差上り書翰和解
二冊抄述、おのづか法後、御書

御國家の一大事有之、實に不容易の節、右書翰趣意
得るに、遂に熟覽終る、存多し、不も有らば、何れ令忘、律、觸、儀も不
若、右十箇中、上且法後、書翰註補、其諸、所、儀、全、一、時、
以、推、道、者、右、右、不、右、泥、存、多、趣、下、右、右、
御書翰、和解、一、後、何、何、要、生、右、趣、不、容易、筋、右、全、
皇國、虚實、剛、脆、下、右、窺、問、題、右、右、考、以、右、成、生、德、便、
抄、扱、之、以、抄、静、禮、お、海、以、右、策、考、有、
熟、覽、之、儀、一、初、抄、評、容、無、
後、急、格、別、治、定、兵、端、
無、
平、民、持、郵、
已、抄、抄、海、抄、抄、右、右、右、右、右、
作、世、右、方、也、

無、
平、民、持、郵、
已、抄、抄、海、抄、抄、右、右、右、右、右、
作、世、右、方、也、

幸存右方我意中募放蕩亂入之所為至以時多強
乃正打拂以後近海家之事不在心後後重
即威勢以示之來山並西而振之上再之後來形也
之內趣意誠以強以改方之改以改之改以改之
改以改之改以改之改以改之改以改之改以改之
要具都之按取取調整之任儀之守之守之守之
御籌策所要之儀之守之守之守之守之守之守之
言上之任程之儀之守之守之守之守之守之守之
合對之任中清趣之守之守之守之守之守之守之
之任中清趣之守之守之守之守之守之守之

八月廿九日

美濃守 利剛

癸丑九月廿日出

南部美濃守

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

此後北亞墨利加船浦發表に渡来彼地國王より書翰
持来仕る方より書翰和解沙渡り如存あり亦も西に
各處様上上度即達之趣耳畏いし渡り書面を以て
得た和解之趣を我國に和親を結産物交易を以て且於
南境來船之他を以て定まる用具調遣仕外獵船或は漂
流人西に扱向等數ヶ條之形を以て凡そ重要の交易次
來船之地等 許すべし此の事欲ら存る持来仕る彼
中齋齒の是等海變之物多我國に沃饒を以て對里渡來
通商交易を以て事之者西に存る終に彼の形に世交
易等と許容らゆべき也此方有用の品物と異産寡益
之玩器と換り事之者有るは其の率に生害即國內に疲弊
潤澤の自古國內に所産を以て不自由無く唯異國に求
むる之を藥種の一品に在り得たり是は清國阿茶院に交易
よく事定むれば存る交易の許容らゆべし他國
及兼り以て定む諸方より形出たりと存る旁に清蘭二
外に交易通信不おも趣を以て許すべし然る存る去來書
之中兼り無く時を軍艦と差向りし許すべし以て先任令
巨艦大銃を挟み威来岸上陸し候に彼の利無く存るは
強る海客と強妨り近き有るは存る海防に法を以て兼り
處重し西に締被り作出別近頃ハ後儀は為届以事
存る皆第一等其の九津國力成心打拂以外に官費
併指し希ハ海上に道路絶塞仕指支の儀有る官費
亦存るは仍た其儀を一事に候ら存る此を無量費

用を省き実用し守衛と爲し信後肝要を存し
右に抄尋の所を存す決才書版に上り謹言

八月廿七日

丹羽元京大夫 長富

阿部伊勢守殿

牧野信成守殿

松平和泉守殿

松平伊豆守殿

久世大和守殿

謹申上云覚

浦安表の渡来の亞墨利加船の差出及書籍の和解写二冊
陸奥守に於て同く早く早速廻進仕候事今度より候事
所國家の事は大方の實に不容易節以爲篤と熟慮仕候事
之趣有らば候旨令忌釋解にも不苦在万御心慮不致十分
下り上り並に之致の苦難於浦安に清死に候事全一時に此權
道に在る右に不お泥存候事趣申上り上り更に候事畏れ候事然
海外異奴の事情に事難に上元東漢学難事と身分外
國に在る對照
所國體に在る事守の關係に一大事と所至る中々心夙考
に涉慮難に上候事勿論に座に別格に在る趣意柄に不顧
并陸に見充に陳述仕候

別段中上建白愚考条件

此段合衆國法才信并此後以子南向處備之亦至其法
籌策以建隊有少度以之其途亦得是是近憂同仕信以愚
考又至之情形并批思信事其書信之庸論罪死其
也縮以得在以此時合之受并心信以信在之中試以

一豆腐 上総之三國者

大城之咽喉要地并十方石以上之大名領地也 作并重造也
お建度無左時之奔命小勞水防禦も為く小實益之也
此段言及我之也

一豆別大嶋之及洋海之三五島夷奴若占據信時の中一也

一天子之存際也信之糧兵之度も此段軍艦亦可也輕信也
作并夜也

一軍艦無少度多之不お海見以事加陳述不信也南今迅

速小業高之命艦工之五家也造之必乃在夜切也存也

并海岸持諸大名揚自小 御免也 作也夜也諸大名軍

艦之外決高民 彭製造也炭禁也夜也

公邊海手船之外外洋航海也其為之也終日本海亦決也

お用也其細書也其信也 作并之也上其也

但業工之囑托也明書也其信也今之也其也其也其也其也

四五被完磁法也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

建也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

治免之也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

澳向費也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

即免其下皮以法庇免省浪用一助其如夫又
防慮之方手原其所以而之一位上難者仕合其
感服事

一伊豆七嶋之外島嶼拓竊據之患憂之
以府之文是正方穢卓見之人數軍心分憂托信
之魚朋與接境一海之隔以年各亂國之般海
之島之島被之為高視觀虛帳吏之地方侵畧有併仕未
之廣延之兵備單寡加之士氣軟弱不振實之危之極也
存之大藩之候伯之振之如也重之役設之
可也。外侮之自存以天幸為常宴安消為先以軍少為
○二防
○二守
○二落
○二任

一事新設中よりして其意を得る洋蜜之在對實用亦利
之大概の事存之の製造の如く其先分の少豫備の如
調度且礮の如く立不中時八千人金の大煩也枯木之類一以沃
在下管根金三郎候之多年鞏固之為之其傍の如く熟知
往熟仕管の如く立之志の語本始昨範也 作付成熟之旨
出外立諸藩之信位在、一層際之信以被拜之如く在後
其存事

但是正容之信承仕長之志之何之之石限有之信候之
事實之出入費之失其莫大之害存候之始終之取締
方在存事
一過之正新令也 作付身忍在公得之諸大名税之手之困窮
不得止用達天災拓之致方無可度之得之昇平凡有之深

先般浦如表旨 渡事之 亞墨利加 差出以 書籍和解二通
由波之 亦如 此後之 儀也

御國家之 大事 有之 實 不容易 歸 亦 有 書籍 題意
得 且 熟 況 仕 務 有 爲 之 宗 有 之 旨 任 令 忌 憚 觸 之 不 苦 百
柳 心 應 不 涉 下 上 有 旨 仰 候 之 旨 不 願 憚 存 意 恐 甚 情 甚
中 上 之 亞 墨 利 加 差 出 以 書籍 之 始 末 逐 熟 況 以 實 實 之

御國家之 法 一 大事 有 之 旨 保 文 體 之 趣 得 之 旨 見 之 旨
時 亞 墨 利 加 九 國 世 始 之 旨 互 用 雜 事 之 旨 也 爲 害 之 旨 以 極 之
風 從 之 旨 居 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也
是 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也
誠 同 候 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也
實 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也

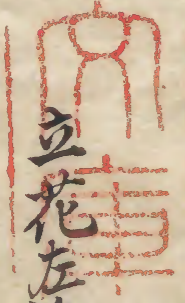
者 有 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也
之 何 分 難 成 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也
面 之 趣 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也

之 旨 規 便 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也
之 旨 規 便 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也
奉 之 旨 規 便 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也

持 之 旨 規 便 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也
備 之 旨 規 便 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也
者 之 旨 規 便 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也 凡 之 旨 亦 上 之 旨 也



八月廿九日



立花左近將監

鑑寬

先帝... 德宗... 宣宗... 高宗... 孝宗... 光宗... 穆宗... 文宗... 高宗... 孝宗... 光宗... 穆宗... 文宗...

世宗... 高宗... 孝宗... 光宗... 穆宗... 文宗...

高宗... 孝宗... 光宗... 穆宗... 文宗...



... 德宗... 宣宗... 高宗... 孝宗... 光宗... 穆宗... 文宗... 高宗... 孝宗... 光宗... 穆宗... 文宗... 高宗... 孝宗... 光宗... 穆宗... 文宗...

